

資料編

<資料目次>

[資料Ⅰ] 委員会の実施状況

■ 「京都市立工業高校将来構想委員会」設置要綱	-----	2
■ 京都市立工業高校の将来構想について（諮問）	-----	3
■ 「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」の 「まとめ」の概要（平成22年7月20日策定）	-----	4
■ 京都市立工業高校将来構想委員会 委員名簿	-----	6
■ 京都市立工業高校将来構想委員会 審議経過	-----	7

[資料Ⅱ] 委員会配布資料

資料1	洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員 （平成23年度入学者選抜）	-----	9
資料2	洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数（平成23年度）	-----	10
資料3	洛陽工業高校・伏見工業高校 教員等の教職員の在籍状況（平成23年度）	---	11
資料4	洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況（平成以降）	-----	12
資料5	京都市立工業高校の中途退学者の状況	-----	14
資料6	洛陽工業高校・伏見工業高校 カリキュラム略表【全日制】 （平成23年度入学生）	-----	15
資料7	伏見工業高校 カリキュラム略表【定時制】（平成23年度入学生）	-----	16
資料8	洛陽工業高校・伏見工業高校の コア科目（課題解決能力を育成する科目）の概要	-----	17
資料9	洛陽工業高校・伏見工業高校のコア科目 （キャリア形成能力、公共心、勤労観・職業観を育成する科目）の概要	-----	18
資料10	伏見工業高校 システム工学科 キャリア実践コース 概要	-----	19
資料11	洛陽工業高校・伏見工業高校の産学連携等の主な取組状況（平成19年度～）	--	20
資料12	洛陽工業高校・伏見工業高校における入学者選抜の状況	-----	24
資料13	京都市地区中学校3年生徒数及び洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】	-----	25
資料14	京都市地区中学校3年生徒数及び洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】	-----	26
資料15	京都市地区通学圏の中学校3年生数の推移（今後5年間）	-----	27
資料16	洛陽工業高校・伏見工業高校 企業等からの求人状況の推移	-----	28
資料17	洛陽工業高校・伏見工業高校 卒業後の進路状況【全日制】	-----	29
資料18	洛陽工業高校・伏見工業高校 卒業後の進路状況【定時制】	-----	30
資料19	洛陽工業高校・伏見工業高校 全日制生徒の卒業後進路の変化 （平成6年3月・平成23年3月卒業生比較）	-----	31
資料20	専門教育を主とする学科について	-----	32

資料 21	工業に関する専門学科の教育課程の特徴	33
資料 22	京都府内公立高校募集定員及び工業に関する専門学科の募集定員 (平成24年度選抜)	34
資料 23	全国高等学校学科別生徒数の推移(全日制・定時制)	35
資料 24	京都府高等学校学科別生徒数の推移(全日制・定時制)	36
資料 25	京都市立高校における中途退学の主な理由(平成20年度～平成22年度)	37
資料 26	新規学卒者の在職期間別離職率の推移	38
資料 27	新規学卒者の離職理由	39
資料 28	新規学卒者(全日制高校工業科)の離職状況	40
資料 29	新規学卒者(全日制高校工業科)の離職理由	41
資料 30	新規学卒者(全日制高校工業科)の離職後の就職状況	42
資料 31	洛陽工業高校における資格・検定等の取得状況について (平成20年度～平成22年度)	43
資料 32	伏見工業高校における資格・検定等の取得状況について (平成20年度～平成22年度)	45
資料 33	洛陽工業高校・伏見工業高校における女子生徒の割合の推移 (平成7年度～平成23年度)	47
資料 34	洛陽工業高校・伏見工業高校における女子生徒の進路状況(全日制・定時制)	48
資料 35	2011年版ものづくり白書 (ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告)要約版	49
資料 36	STEM教育の概要について	50
資料 37	「産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 報告書(平成22年4月 経済産業省)」より抜粋	51
資料 38	建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】(平成23年4月1日現在)	54
資料 39	京都市立洛陽工業高校における建物保有状況 【現況平面図】(平成23年4月1日現在)	55
資料 40	京都市立伏見工業高校における建物保有状況 【現況平面図】(平成23年4月1日現在)	56
資料 41	京都市立中学校卒業者の進学状況	57
資料 42	公立高等学校における学級数別学校数の推移(全国 全日制)	58
資料 43	都道府県立高等学校の適正規模等	59
資料 44	単位制の定時制高校の新設について(京都府教育委員会)	62
資料 45	「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」に対する 市民意見募集の結果概要	63

資料 Ⅰ

(委員会の実施状況)

「京都市立工業高校将来構想委員会」設置要綱

(趣旨及び設置)

第1条 京都市立工業高校が果たす役割や将来のあるべき姿について研究・協議するため、京都市立工業高校将来構想委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(審議事項)

第2条 委員会は、京都市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の諮問に基づき、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 京都市立工業高校の目指すべき方向性
- (2) 京都市立工業高校の規模と施設整備のあり方
- (3) その他教育長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、教育長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 産業界関係者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 市民公募委員
- (5) その他教育長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から委員会の終了までとする。

(座長)

第5条 委員会に座長を置く。

2 座長は委員の互選により選出する。

3 座長は委員会を総理する。

4 座長に事故があるときは、委員のうちから座長が指名する者がその職務を代理する。

(専門委員等)

第6条 委員会には、教育委員会事務局職員のほか、必要に応じ、工業教育に精通する者を専門委員として招き、意見等を求めることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、京都市教育委員会事務局指導部学校指導課に置く。

(補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は平成23年6月27日から施行する。

平成23年8月25日

京都市立工業高校将来構想委員会 様

京都市教育委員
教育長 高桑三



京都市立工業高校の将来構想について（諮問）

本市では、豊かな人間性や社会性を育むとともに、生徒たちが自己のあり方や生き方を考え、一人一人の進路を実現できるよう、魅力ある高校づくりを進めています。

とりわけ、洛陽工業高校・伏見工業高校の2校につきましては、明治・大正期以来、確かな技術と高い使命感を兼ね備えた技術者の育成に努め、長年にわたり市民の皆様や産業界とともに「ものづくり都市・京都」さらには「技術立国・日本」を支えてきました。

特に、平成19年度からは、それぞれ「創造技術科」、「システム工学科」を新設し、幅広く「ものづくり」について学ぶとともに、専門的な技術を磨き、社会で活躍できる魅力的な人材育成に努めております。

また、新学科1期生が卒業を控えた平成21年11月には、産業界・学識経験者等からなる「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」を設置し、平成19年度以降の取組について、様々なご意見とご提案をいただきました。

これを受け、両校においては、更なる改革を進めているところでありますが、両校がより魅力ある学校として発展していくための将来構想について、下記の観点を踏まえたご審議を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」における「まとめ」で示された方向性をより具体化するための方策
- 2 上記1の方策や生徒・保護者・産業界等のニーズを見据えた今後の学校規模と施設整備のあり方

「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」の「まとめ」の概要

(平成 22 年 7 月 20 日策定)

はじめに

- ・産業・経済の構造的変化や雇用の多様化等が進む中、改革 1 期生の卒業を機に、両校改革の成果と課題について校長・教員の意見も十分に踏まえて総括した。
- ・改革の成果によって、両校が 8 年連続で学校あっせん就職内定率 100%を達成したことを高く評価。
- ・今後、成果がある取組はさらに発展させ、また見直しが必要な取組は具体的計画を立てて改善を図る。

1 今次の市立工業高校改革の総括

今次改革における重要な取組の主な柱である①「ものづくり」を通した豊かな人間教育の実践、②産学・地域とのパートナーシップに基づく人材育成、③学校組織の改革、④一括募集、⑤伏見工業「システム工学科・キャリア実践コース」、⑥伏見工業「システム工学科・工学探究コース」という6つの観点ごとに成果と課題を分析した。

<洛陽工業>

- ・「洛陽ブランド」という言葉に見られるように企業から卒業生に対して厚い信頼が寄せられている。
- ・コア科目の授業と事前・事後指導を含むインターンシップ、進路指導で実現した就職実績は高く評価。
- ・各専攻コースで生徒たちに確かな専門力を育もうとする教員の努力を評価。
- ・「安定した就職ができる学校」と評価される一方、中学生に「選ばれる立場」にあることの認識が不足し、それ以外に魅力が発信できていない点に教員の危機意識が希薄な面が見られる。
- ・コンテスト全国制覇の実績等もある一方、全体として「外部の教育力」の活用が進んでいない。
- ・大学進学を積極的に保障しようという教員の意識が低い。就職指導に比べ進学指導に不安。

<伏見工業>

- ・「外部の教育力の活用」により生徒・教員双方が良い刺激を受けている。
- ・改革を担う学校組織が有効に機能し、生徒を中心とした指導体制を構築。広報活動の充実により認知度が向上。
- ・多様なコース、多くの取組を展開するが、改革について全教職員で意識が共有できているか再点検が必要。
- ・地域や産学連携の取組が一過性に陥らないよう校内体制の確立が必要。
- ・大学接続を目指す「工学探究コース」は善戦したが、中学生への周知を含め更なる取組の充実を図る。
- ・「キャリア実践コース(昼間定時制)」の 1 期生の成果を周知。中学校の進路指導の改善を継続。
- ・平成 22 年度に改革 1 期生が卒業する夜間定時制について、単位制のあり方など引き続き検証を継続。

2 市立工業高校に求められる役割

- ・市立高校 9 校には普通科をはじめ多彩な専門学科を設置。我が国の将来を担う人材を育成するため、多様なニーズに応じた教育活動の充実を図り、進学や就職など生徒一人ひとりの進路保障に取り組んできた。
- ・工業高校は今後の我が国の「ものづくり」の発展の鍵を握っていると言っても過言ではない。
- ・「ものづくり」に貢献するという観点で市立工業高校の役割を考えた場合、生産現場の第一線で活躍する人材、企業の経営に携わる人材、研究開発に取り組む人材、技術等を次代に伝える人材など多彩な人材育成が不可欠。

(1) 産業界が工業高校に求める人材育成のあり方

- ・特定企業の即戦力を育成することは実質的に不可能。技術者としてベーシックな素養を育成することが必要。
- ・社会人としての基礎知識や就労意欲、人の話を聞く力、安全意識など「基礎・基本」が一番大切である。そういう意味では「前回まとめ」①～⑥の方向性を維持し、さらに発展させていきたい。

①「ものづくり」を通した豊かな人間教育の実践、②「ものづくり」を通した勤労観・職業観の醸成、③ 将来の夢に向かってチャレンジするための将来設計・計画実行能力、④ 自己の生き方を主体的に選択する能力、⑤ 環境変化に機敏かつ柔軟に対応できる課題解決能力、⑥ 社会貢献への意識啓発、⑦産学・地域とのパートナーシップに基づく人材育成

(2)工業高校における大学進学希望者のニーズに応える教育の充実

- ・大学進学し、大学や研究機関、企業での研究開発、経営分野等へ進む道も切り拓ける工業高校づくりも必要。
- ・さらに、技術革新の進展に伴い、企業での先端技術に触れる学習、科学・産業技術分野の第一線で活躍している研究者等を招く授業、社会で役に立つ資格取得等の推進をこれまで以上に進めるべき。
- ・これまで以上に生徒たちに新鮮な刺激を与え、将来のキャリア意識を育てる機会を充実、感動や素晴らしい夢を与える機会を生むためには地域・産学連携など「外部の教育力」をさらに活用していくべき。
- ・工業高校は「達成感」を得る機会が多いため、「自分で考える楽しみ」を学ばせるなど、目的意識を持ち意欲的に学ぶ人材の育成を進めるべき。
- ・工業高校は教育課程面で普通科目の履修が少なくなる面があるが、推薦制度など積極的に活用していくべき。

(3)小・中学生にとって魅力ある工業高校の在り方

- ・中学生は「モノづくりが好き」という理由だけでなく、部活動、「就職に有利」など様々な理由で工業高校を選択している現状もある。そうした生徒も「工業好き」に育てる魅力ある教育活動が必要。
- ・「工業高校ならではの魅力」、「卒業時に獲得できる力」、「求める生徒像」をしっかりと発信しなければ、「ものづくり」に関する高い意識を有する中学生の入学は期待できない。
- ・生徒たちを惹きつける「工業ならではの魅力ある教育」が展開できているか、発信できているか等、今一度、教員一人ひとりが当事者意識を持って点検・行動をしてほしい。

3 市立工業高校の更なる発展に向けて

- ・生産現場の第一線で活躍する生徒の育成は引き続き重要であるが、大学や研究機関、企業での研究開発への道を志す人材、豊かな人間性を備えた企業経営者の育成など、市高総体で「ものづくり」の発展に貢献していかなければならない。
- ・①「ものづくり」への興味・関心
工業高校では「学ぶ目的」、すなわち専門知識・技術が実際どのように社会で活用されるのかを理解するためには、産学・地域連携の取組や各専攻コースの力を融合して、みんなで目標を共有してロボット等一つのものを作り上げるなどの取組が大変有効である。
- ・②両工業高校の連携
工業2校として就職・進学とも柔軟に対応できることが理想であるが、今次改革の成果について両校が互いに参考にすべき点は多く、両校がそれらを尊重していくことで工業高校の更なる発展が可能であると考える。
- ・③教員の資質向上
「教育は人なり」と言われるように、生徒たちをひきつける教員自身の魅力が不可欠。教員自身も企業や大学、自治体、地域との連携を通じて刺激を受けながら、資質や力量の向上に励んでほしい。
- ・結び
今後の産業・経済界をはじめ日本社会の変化・発展を見据え、多様で加速的な状況の推移に柔軟かつ迅速に対応することは、工業教育を含め高校教育の果たすべき重要な役割。

京都市立工業高校将来構想委員会 委員名簿

◎：座 長

氏 名	役 職 等	備考
池垣 伊三郎	京都市立伏見工業高等学校同窓会 会計	
尾河 清二	洛陽京工会 副会頭	
奥 美里	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室長	
高倉 章雄	京都工芸繊維大学名誉教授	
高橋 智隆	ロボットクリエイター (株) ロボ・ガレージ代表取締役社長	
竹川 貴博	市民公募委員	
中山 誠	市民公募委員	
名高 新悟	京都機械金属中小企業青年連絡会 前代表幹事	
林 倫子	立命館大学理工学部 助教	平成 24 年 4 月～
廣瀬 忠愛	京都市立中学校長会 副会長	～平成 24 年 3 月
福本 早苗	武庫川女子大学 生活環境学部 教授	
◎松重 和美	京都大学名誉教授 龍谷大学特別任用教授	
水田 真紀	立命館大学理工学部 助教	～平成 24 年 3 月
向井仲 和美	京都経営者協会 前専務理事	
村上 幸一	京都市立中学校長会 会計	平成 24 年 4 月～

(五十音順・敬省略)

※専門委員

氏 名	役 職 等	備考
荒瀬 克己	京都市教育委員会事務局 教育企画監	平成 24 年 4 月～
生田 義久	京都市教育委員会事務局 教育政策監	～平成 24 年 3 月
恩 田 徹	京都市立洛陽工業高等学校 校長	
道越 隆夫	京都市立伏見工業高等学校 校長	

(五十音順・敬省略)

京都市立工業高校将来構想委員会
審議経過

	開催日	開催場所	内容
第1回	平成23年8月25日	伏見工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長諮問 ・市立工業高校の現状等に関する協議 ・伏見工業高校の施設見学
第2回	平成23年11月10日	洛陽工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校において育てるべき力に関する協議 ・洛陽工業高校の施設見学
第3回 (視察)	平成23年12月22日	神戸市立科学技術高校, 神戸工科高校	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市立科学技術高校, 神戸工科高校の視察
第4回	平成24年2月23日	京都市総合教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校において育てるべき力に関する協議 ・施設設備の方向性に関する協議
第5回	平成24年4月24日	伏見工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の方向性に関する協議 ・適正な学校規模に関する協議
第6回	平成24年6月14日	洛陽工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備のあり方に関する協議 ・適正な学校規模に関する協議
第7回	平成24年8月1日	伏見工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・中間まとめに向けた議論の整理
第8回	平成24年9月24日	洛陽工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・中間まとめ(案)について
	平成24年10月22日 ～11月12日		<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集
第9回	平成24年12月11日	伏見工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・市民意見募集で寄せられた意見の確認 ・最終まとめ(案)について

資料 Ⅱ

(委員会配布資料)

資料 1

洛陽工業高校・伏見工業高校 設置学科及び生徒募集定員（平成23年度入学者選抜）

	全日制	定時制(昼間)	定時制(夜間・単位制)	計
洛陽工業	創造技術科 180		電気科・機械科・コンピュータ科 ※平成22年度末に閉制	180名
伏見工業	システム工学科 170	システム工学科 (キャリア実践コース) 20	工業技術科 30	220名
計	350名	20名	30名	400名

両校とも、1年時は共通履修、2年時からコース選択。コースは、以下の通り。

洛陽工業高校 創造技術科 → 電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース

伏見工業高校 システム工学科 → 住環境システムコース・都市情報システムコース・
生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース

洛陽工業高校・伏見工業高校 在籍生徒数(平成23年度)

※ 平成23年4月時点 各校報告数

※ 入学者数と1年生徒数が異なるのは、原級留置生徒や入学後調査までに中退した生徒がいるため。

【洛陽工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
創造技術	180	180	190	174	151	515	44

コース	2年	3年	計	(うち女子)
電気	49	29	78	9
電子	56	50	106	6
機械	53	43	96	5
京都ものづくり	16	29	45	11
計	174	151	325	31

【伏見工業】

全日制

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	うち女子
システム工学	170	170	172	161	145	478	62

コース	2年	3年	計	(うち女子)
住環境システム	31	28	59	14
都市情報システム	32	17	49	6
生産技術システム	39	34	73	0
テクノシステム	39	34	73	10
工学探究	20	32	52	6
計	161	145	306	36

定時制(昼間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	計	(うち女子)
システム工学 (キャリア実践コース)	20	20	22	27	25	74	9

定時制(夜間)

学科	募集定員	入学者数	1年	2年	3年	4年	計	(うち女子)
工業技術	30	30	32	35	18	20	105	6

洛陽工業高校・伏見工業高校 教員等の教職員の在籍状況(平成23年度)

平成23年4月1日現在

学校名	洛陽工業		伏見工業				計	
校長(①)	1		1				2	
	全日制		全日制		定時制	計		
副校長			1		1	2	2	
教頭	2		1			1	3	
主幹教諭	指導教諭(保体) 1		(工業) 1			1	2	
教諭等	54	(19)	57.5	(13)	30.5	(2)	88 (15)	142 (34)
うち工業科	33.5	(12)	36	(9)	16	(2)	52 (11)	85.5 (23)
うち普通教科	20.5	(7)	21.5	(4)	14.5		36 (4)	56.5 (11)
養護教諭	1		1		1	(1)	2 (1)	3 (1)
教員計(②)	58	(19)	61.5	(13)	32.5	(3)	94 (16)	152 (35)
実習助手	4		3		3		6	10
管理用務員	2	(嘱託) (2)	2	(1)	1	(1)	3 (2)	5 (4)
計(③)	6	(2)	5	(1)	4	(1)	9 (2)	15 (4)
計(②+③)	64	(21)	66.5	(14)	36.5	(4)	103 (18)	167 (39)
事務長	1				1			2
事務職員	3	(1)			5		(1)	8 (2)
計(④)	4	(1)			6		(1)	10 (2)
教職員計(①+②+③+④)	69	(22)			110		(19)	179 (41)

- ① 上記表は再任用者数を含む。
- ② ()は臨時的任用者数で内数。臨時事務員(アルバイト)を除く。
- ③ 上記表のほか、非常勤講師、英語教育指導助手(ALT)等が在籍する。
- ④ 伏見工業高校(全日制)の教諭数には昼間定時制8名を含む。
- ⑤ 伏見工業高校(全日制)の副校長については教頭級。

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況(平成以降)

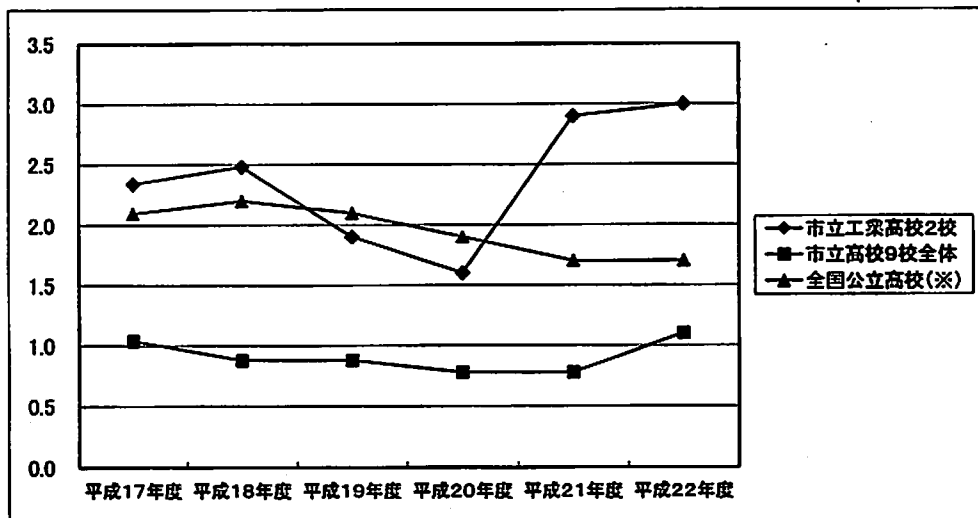
選抜年度	概要	内容
平成2年度	洛陽工業(全)「情報電子科」 伏見工業(全)「産業デザイン科」 等の設置	[洛陽工業(全)] 6学科9学級(機械2・電子2・電気2・化学工業1・色染化学1・染織技術1)を 5学科7学級(電子機械2・情報電子2・電気1・化学工業1・染織技術1)に改編。 [伏見工業(全)] 7学科8学級(金属工芸1・精密機械1・建築2・土木1・インテリア1・工業デザイン1・窯業1)を 5学科7学級(機械2・建築2・建設工学1・産業デザイン1・セラミック1)に改編。
平成10年度	伏見工業(全)「総合技術科」 同校(定)「都市建設科」 洛陽工業(定)「コンピュータ科」 等の設置	[伏見工業(全)] 「セラミック科」を廃止、「機械科」を1学級減し、「総合技術科」を新設し、 5学科6学級(機械1・建築2・建設工学1・産業デザイン1・総合技術1)に改編。 [伏見工業(定)] 「土木科」「建築科」を統合して「都市建設科」を置き、 2学科4学級(機械2・都市建設2)に改編。 [洛陽工業(定)] 「工業化学科」を廃止、「電気科」を1学級減する一方で、「コンピュータ科」を新設し、 3学科4学級(機械2・電気1・コンピュータ1)に改編。
平成11年度	洛陽(全)を3学科群7学科に 全面改編	5学科7学級(電子機械2・情報電子2・電気1・化学工業1・染織技術1)を 3学科群7学科(京都伝統産業科1・環境科学科1・電気科1・電子通信科1・電子情報科1・生産技術科1・電子機械科1)に改編。

洛陽工業高校・伏見工業高校における学科改編の状況

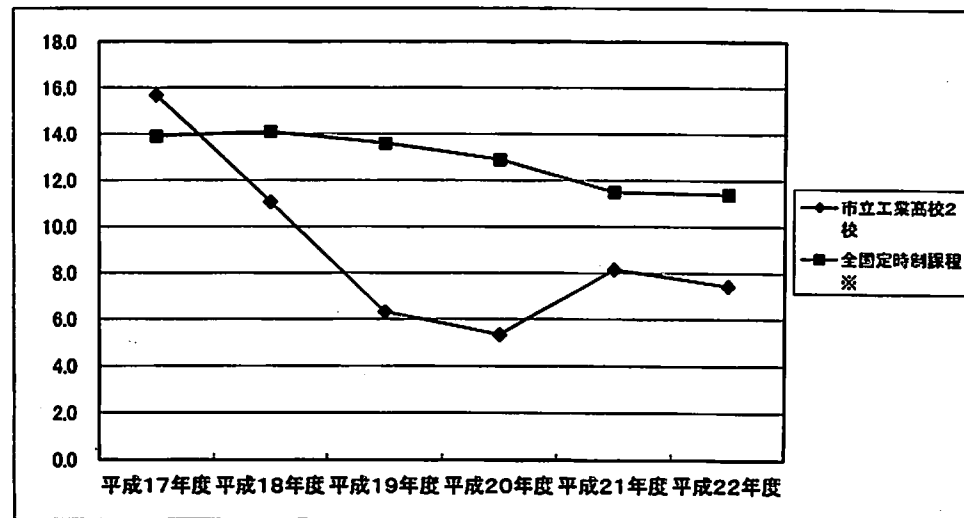
選抜年度	概 要	内 容
平成19年度	<p>洛陽工業(全)を1学科4コースに 伏見工業(全)を1学科5コースに 全面改編</p> <p>洛陽工業(定)の募集を停止</p> <p>伏見工業(定)を 昼間1学科1コースと 夜間単位制1学科に改編</p>	<p>〔洛陽工業(全)〕</p> <p>3学科群7学科(京都伝統産業科1・環境科学科1・電気科1・電子通信科1・電子情報科1・生産技術科1・電子機械科1)を 1学科4コース(創造技術科=電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース)に改編。 一括募集。</p> <p>〔伏見工業(全)(昼間定)〕</p> <p>5学科6学級(機械1・建築2・建設工学1・産業デザイン1・総合技術1)を 1学科5コース(システム工学科=住環境システムコース・都市情報システムコース・生産技術システムコース・テクノシステムコース・工学探究コース)に改編・キャリア実践コースを新設。 一括募集。</p> <p>〔洛陽工業(定)〕</p> <p>募集停止。</p> <p>〔伏見工業(定)〕</p> <p>定時制夜間部(4年)1学科(工業技術科)を単位制に改編。</p>
平成22年度	<p>洛陽工業(定)を閉制</p>	<p>〔洛陽工業(定)〕</p> <p>閉制。</p>

京都市立工業高校の中途退学者の状況

全日制



定時制 ・伏見工業・キャリア実践コース含む



中退率(単位%)

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
全日制	市立工業高校2校	2.3	2.5	1.9	1.6	2.9	3.0
	市立高校9校全体	1.0	0.9	0.9	0.8	0.8	1.1
	全国公立高校(※)	2.1	2.2	2.1	1.9	1.7	1.7

※文部科学省の調査による。

中退率(単位%)

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
定時制	市立工業高校2校	15.7	11.1	6.3	5.3	8.2	7.5
	全国定時制課程(※)	13.9	14.1	13.6	12.9	11.5	11.4

※文部科学省の調査による。

資料6

洛陽工業高校・伏見工業高校 カリキュラム略表【全日制】（平成23年度入学生）

洛陽工業高校 全日制

伏見工業高校 全日制

1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
普通教科																					専門教科						特別活動				
																					コア科目	工業									

1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科																						専門教科					特別活動			
																						コア科目	工業							

2年生(電気コース・ハイパーステージ以外)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
普通教科														専門教科								特別活動									
														コア科目	工業								選択科目 専門系 (工業科目) または 進学系 (普通教科)								

2年生(工学探究コース以外)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科														専門教科								特別活動								
														コア科目	工業								選択科目 普通教科 または 専門教科							

3年生(電気コース・ハイパーステージ以外)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
普通教科													専門教科						選択科目 普通教科 または 専門教科						特別活動						
													コア科目	工業																	

3年生(工学探究コース以外)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科												専門教科						選択科目 普通教科 または 専門教科						特別活動						
												コア科目	工業																	

2年生(電気コース・ハイパーステージ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
普通教科																						専門教科						特別活動					
																						コア科目	工業										

2年生(工学探究コース)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科																						専門教科						特別活動		
																						コア科目	工業						選択科目 普通教科 または 専門教科	

3年生(電気コース・ハイパーステージ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
普通教科																							専門教科				特別活動						
																							コア科目	コア科目				選択科目 進学系 (普通教科)					

3年生(工学探究コース)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科												専門教科						選択科目 普通教科 または 専門教科						特別活動						
												コア科目	工業																	

資料7

伏見工業高校 カリキュラム略表【定時制】(平成23年度入学生)

伏見工業高校 キャリア実践コース (昼間定時制)
1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科																				専門教科						特別活動				
																				コア科目							工業			

2年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科																				専門教科						特別活動				
																				コア科目							工業選択科目			

3年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
普通教科										専門教科						特別活動														
										コア科目			工業選択科目				企業長期実習			選択科目 普通教科 または 専門教科										

伏見工業高校 単位制 夜間定時制
1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
普通教科															専門教科			特別活動	
															工業				

2年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
普通教科												専門教科				特別活動			
												コア科目		工業選択科目					

3年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
普通教科										専門教科				特別活動					
										コア科目		工業選択科目							

必修科目の中で未履修・未修得となった科目がある場合、必要に応じて選択する。
4年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
普通教科	専門教科						特別活動												
	コア科目		工業選択科目					選択科目 普通教科 または 専門教科											

必修科目の中で未履修・未修得となった科目がある場合、必要に応じて選択する。

洛陽工業高校・伏見工業高校のコア科目（課題解決能力を育成する科目）の概要

<洛陽工業高校> 全日制

【目 標】

ものづくりを通して、将来直面する課題を発見し解決する能力、コミュニケーション能力、自己他者理解能力を身につける。

1年

「創造基礎」(2単位)

問題解決能力・プレゼンテーションを身に付ける。さらに、リーダー養成講座を設置し、外部講師を招聘し、実践力を育成する。

2年

電気・電子・機械:

「創造技術Ⅰ(課題研究)」(2単位)

京都ものづくり:

「ものづくり設計(課題研究)」(2単位)

専門コースに関する課題を発見・設定して解決方法を討議し、問題解決学習を繰り返す。

3年

電気・電子・機械:

「創造技術Ⅱ(課題研究)」(2単位)

京都ものづくり:

「ものづくり探求(課題研究)」(4単位)

専門コースにおいて課題解決能力・コミュニケーション能力・自己他者理解能力を養う。

ただし、電気コース・ハイパスステージについては、2年次に設置せずに、3年次に「HYPER(課題研究)」(4単位)として設置している。

<伏見工業高校> 全日制

【目 標】

課題解決学習の基本的な過程を理解し、教科横断的な指導による実践的な学習活動から「ものづくり」や「まちづくり」に対する幅広い視野を身につけることができる。

1年

「創造研求Ⅰ」(2単位)

<発見・基礎のステージ>

課題発見から解決まで、一連のプロセスを体験する中で基礎的な手法と技術を身につけ、課題解決能力の育成を図る。

2年

「創造研求Ⅱ(課題研究)」(2単位)

<充実のステージ>

すでに学んだ専門知識や技術をもとに、試作・実習・調査研究にチャレンジ、その研究成果を発表することによりプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力の向上を図る。

3年

「創造研求Ⅲ(課題研究)」(2単位)

<発展のステージ>

これまで学んだ知識・技術・理論を総動員して「課題研究」に取り組み、その研究成果を発表する。企画力、創造力の向上を図る。

昼間定時制

【目 標】

課題解決学習の基本的な過程を理解し、幅広い分野からの題材で、実践的な学習活動にとりくみ、「ものづくり」に対する幅広い視野を身につける。

1年

「創造研求Ⅰ」(2単位)

<発見・基礎のステージ>

限られた材料での作品の工夫製作や調査研究を通して、課題解決に向けた手法や技術の基本を身につける。

2年

「創造研求Ⅱ(課題研究)」(2単位)

<充実のステージ>

企業実習での体験を活かしながら、専門の技術の深化を図り、課題解決能力の向上や発表する力を養う。

3年

「創造研求Ⅲ(課題研究)」(2単位)

<発展のステージ>

企業長期実習で得られた技術・技能を最大限活用しながら、「課題研究」に取り組み、その成果を発表する。

夜間定時制

【目 標】

課題を発見し、解決の方法を考え、自らの考えを他者に伝えることを学習する。

2年

「創造研求Ⅰ」

(2単位)

作品の製作・発表を通して、工業に必要な知識・技術の習得し、問題解決能力の向上をめざす。

3年

「創造研求Ⅱ(課題研究)」

(2単位)

工業に必要な知識・技術の習得し、問題解決能力の向上を目指し、課題制作・発表の流れを身につける。

4年

「創造研求Ⅲ(課題研究)」

(2単位)

最終の課題製作に取り組み、その成果を発表する。

資料9

洛陽工業高校・伏見工業高校のコア科目（キャリア形成能力、公共心、勤労観・職業観を育成する科目）の概要

<洛陽工業高校> 全日制

【目標】
自己理解や自己発見をしながら、職業観・労働観を育むとともに、将来設計と専門コース選択ができるようにする。進路実現の取組と卒業後の自分を見つめるキャリアプランを設計する。

1年

「キャリア基礎」(1単位)
「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の育成を目指す。自己発見や自己理解をしながら、将来設計を立て、学校生活をプランニングする。

2年

「キャリア形成Ⅰ」(1単位)
人間としてのあり方・生き方を学ぶとともに、インターンシップを通して、職業観や勤労観を育成し、希望の進路実現に向けた取組を実践する。

3年

「キャリア形成Ⅱ」(1単位)
「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の育成を図るとともに、外部講師による講義や講話などを通して社会における役割や生き方を考える。

<伏見工業高校> 全日制

【目標】
働くことの意義、職業人としての意識・生き方を身につけさせ、自分の将来設計ができるキャリア形成能力や公共心を育てる。

1年

「キャリア研求Ⅰ」(1単位)
＜発見・理解のステージ＞
マナー講座や講演、職業適性検査などで、自己を理解し、社会を知り、学校生活の過ごし方を考える。これにより職業観・勤労観を確立させ、将来設計の立案と社会への移行をはかる。

2年

「キャリア研求Ⅱ」(1単位)
＜行動のステージ＞
クレベリン検査・大学訪問・職業適性検査や外部講師講演などとおして、自他を理解し、社会を知り、将来の目標や卒業後の進路を考える。インターンシップを通して、勤労観・職業観、社会の状況を確認させ、進路実現の方法を確立させる。

3年

「キャリア研求Ⅲ」(1単位)
＜実現のステージ＞
進路ガイダンス・職業探索・就職講座などを通して将来の目標をたて、卒業後の進路を決め、実現に向けて取り組む。自己の特性と適性を確認し、自己実現(就職・進学)に向けた的確な行動と考え方を確立させる。

昼間定時制

【目標】
働くことの意義、職業人としての意識・生き方を身につけさせ、企業実習などの体験を活かしながら、自分の将来設計ができるキャリア形成能力や公共心を育てる。

1年

「キャリア研求Ⅰ」(2単位)
＜発見・理解のステージ＞
経営者の講演や企業見学を通して、社会を知ると同時に、マナー講座やレディネステストなどを通して自己理解を図る。

2年

「キャリア研求Ⅱ」(2単位)
＜行動のステージ＞
職業適性検査を通して自他を理解すると同時に、企インターンシップ等の実際の体験を通して卒業後の進路を考える。

3年

「キャリア研求Ⅲ」(2単位)
＜実現のステージ＞
企業長期実習での体験を活かしながら、将来の目標を立て、実現に向けた取組をする中で、卒業後の進路の具体化を図る。

夜間定時制

【目標】
主体的に進路選択や将来設計を行う力を育てるとともに、勤労観・職業観を育成する。

2年

「キャリア研求Ⅰ」(1単位)
職業について知る、調べる、将来設計、資格試験の取組を行う。

3年

「キャリア研求Ⅱ」(1単位)
職業について知る、調べる、将来設計、資格試験の取組を行う。

4年

「キャリア研求Ⅲ(現代社会)」(1単位)
広く社会を知ること、将来設計、資格試験の取組を行う。

伏見工業高校 システム工学科 キャリア実践コース 概要

基本システム例

「京都市立工業高校のあり方に関する検討プロジェクト」の「まとめ」で示された方向性を踏まえて、きめ細かな事前指導を行うため、平成23年度選抜より、募集定員を30名から20名へ定員減を行った。さらに、1年生で企業見学等を実施し、目的意識を向上と基礎学力の充実を図り、2年生で専門分野を学ぶとともに、インターンシップを通じてキャリア形成を図り、3年生に集大成として「長期企業実習」を実施するようカリキュラムを変更した。

変更前

- 1年生：インターンシップ（5日間）×3回
 2年生：企業長期実習（40日間）×1回
 3年生：企業長期実習（40日間）×1回



変更後

- 1年生：企業の事業所や現場見学の実施 ×3回
 2年生：インターンシップ（5日間）×2回
 3年生：企業長期実習（40日間）×1回

提携企業数 120社（平成23年7月末現在）

1期生（平成19年度入学生）

日付	内容（実施学年）	生徒・企業数
19.9.6(木)～9.12(水)の5日間	第1回インターンシップ(1年生時)	26名・18社
19.11.1(木)～11.7(水)の5日間	第2回インターンシップ(1年生時)	24名・17社
20.2.4(月)～2.8(金)の5日間	第3回インターンシップ(1年生時)	23名・18社
20.10.15(水)～12.9(火)の約40日間	第1回企業長期実習(2年生時)	14名・14社
21.4.16(木)～6.10(水)の約40日間	第2回企業長期実習(3年生時)	14名・14社

2期生（平成20年度入学生）

日付	内容（実施学年）	生徒・企業数
20.9.4(木)～9.10(水)の5日間	第1回インターンシップ(1年生時)	35名・24社
20.11.6(木)～11.12(水)の5日間	第2回インターンシップ(1年生時)	35名・26社
21.2.2(月)～2.6(金)の5日間	第3回インターンシップ(1年生時)	35名・23社
21.10.15(木)～12.9(水)の約40日間	第1回企業長期実習(2年生時)	25名・21社
22.4.15(木)～6.4(金)の約40日間	第2回企業長期実習(3年生時)	19名・16社

3期生（平成21年度入学生）

日付	内容（実施学年）	生徒・企業数
21.9.3(木)～9.9(水)の5日間	第1回インターンシップ(1年生時)	28名・20社
21.11.9(木)～11.13(水)の5日間	第2回インターンシップ(1年生時)	27名・22社
21.1.25(月)～1.29(金)の5日間	第3回インターンシップ(1年生時)	25名・18社
22.10.14(木)～12.3(金)の約40日間	第1回企業長期実習(2年生時)	26名・22社
23.4.18(月)～6.7(火)の約40日間	第2回企業長期実習(3年生)	25名・22社

4期生（平成22年度入学生）

日付	内容（実施学年）	生徒・企業数
22.9.2(木)～9.8(水)の5日間	第1回インターンシップ(1年生時)	30名・27社
22.11.8(月)～11.12(金)の5日間	第2回インターンシップ(1年生時)	29名・23社
23.1.24(月)～1.28(金)の5日間	第3回インターンシップ(1年生時)	28名・25社
23.10.20(木)～12.13(火)の約40日間	第1回企業長期実習(2年生)	

資料11

洛陽工業高校・伏見工業高校の産学連携等の主な取組状況（平成19年度～）

1 産学連携の主な取組

洛陽工業	伏見工業
<p>・理工系次世代リーダー養成講座 平成23年度より1年生の「創造基礎」において、日経新聞社の方のコーディネートのもと、様々な企業の経営者や技術者などを講師として招聘し、次世代リーダー養成講座を実施。</p> <p>・「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」の取組 独立行政法人科学技術振興機構の支援を受け、高校と大学、企業等との連携のもと体験的・問題解決的な学習活動を実施。</p> <p>平成20年度 ・太陽光発電・風力発電の相互運用による学習 平成21年度 ・風洞実験より風力発電機の風車の設計 平成22年度 ・三葉虫をモチーフにした多関節ロボットの製作を通じた技術と科学と工学の融合への挑戦 平成23年度 ・小惑星探査ロボット「ハマグリグリ」の開発 ・自律型ロボットの製作と発表を通じた問題解決型演習の開発</p> <p>・エネルギー教育実践校（平成20～22年度） エネルギー教育実践校として認定を受け、企業との連携を通して太陽光発電及び風力発電を用いたクリーンエネルギー発電の有効活用に取り組む。</p>	<p>・「大学コンソーシアム京都」の実践共同教育プログラム 平成21年度より「環境や人々の生活と自然エネルギーの活用」を研究テーマに立命館大学等と高大連携事業を実施。</p> <p>・「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」の取組 独立行政法人科学技術振興機構の支援を受けて、高校と大学・中学校等との連携を通して、体験的・問題解決的な学習活動を実施。</p> <p>平成19年度 ・GISを活用した都市環境に関する学習 平成20・21年度 ・都市情報システムの探究・理解 平成22年度 ・バルサによる橋梁模型製作一橋の構造を学ぶ 平成23年度 ・水災害発生メカニズムとその対策 ・まちづくり学習講座（伏見稻荷を中心として） ・地域住民とともに考えるまちづくり学習講座 ・土砂災害および水災害の発生メカニズムとその対策 ・コンクリートの劣化を防ぐ</p> <p>・伏見区まちづくり事業「深草環境再生ネットワーク事業」 京都教育大学、NPO団体、地域との連携のもと、「深草環境再生ネットワーク事業」として、大岩山の環境整備を行い、展望台とデッキを製作した。さらに、風力・ソーラー発電を用いた「展望スポットづくり」に取り組んでいる。</p>

洛陽工業高校・伏見工業高校の産学連携等の主な取組状況（平成 19 年度～）

2 地域貢献の主な取組

洛陽工業	伏見工業
<p>・「雨水プロジェクト」の実施 紫野高校とのコラボレーション企画として、太陽光パネルにより得た電気でポンプを回し、雨水を貯めたタンクから定時に散水することができる自動散水装置を洛陽工業の生徒が開発・製作し、紫野高校に設置した。</p> <p>・唐橋小学校の児童たちとの交流（風力発電機の見学会の実施） 企業連携のもと、エコ装置の共同研究のために同校屋上に設置した「風力発電装置」を唐橋小学校児童が見学、環境意識を啓発。</p> <p>・「まゆまるお茶ロボット」の製作 今秋に実施される第 26 回国民文化祭・京都 2011 の「はじめてのお茶とお香」において、お茶を点てて運ぶことができる「まゆまるお茶ロボット」を開発・製作し、まゆまるお点前コーナーで披露する計画。</p> <p>・「京都こどもモノづくり事業」の実施 平成 19～23 年度 ソーラーカー製作及びタイムレース（中学生対象） サッカーロボット製作及び競技大会（中学生対象）</p>	<p>・「まちづくり学習」の実施 立命館大学、建築士会、地域、市役所等との連携のもと、防災・交通・景観に関する講義やディスカッション、フィールドワークを行い、まちづくりに対する知識を深め、様々な課題を発見し解決方法を地域の方に提案していく学習を実施。</p> <p>・「間伐材を活用した水車発電」の実施 北区小野郷地域の住民の方々の協力を得て、北山杉の間伐材で水車を製作し、この水車の発電で約 2000 個の LED の明かりで岩戸落葉神社をライトアップさせる取組を実施。</p> <p>・「京都こどもモノづくり事業」の実施 平成 20 年度 カルタ製作とカルタ大会（小学生対象） 木材をつかったコースター製作（小学生対象） 平成 21～23 年度 ラグビーロボット製作及び競技大会（中学生対象） 橋梁模型の製作及びブリッジコンテスト（中学生対象） 平成 21 年度 和凧作成（小学生対象） 平成 22 年度 木材をつかったコースター製作（小学生対象） 平成 23 年度 木製折りたたみ椅子の製作（小学生対象）</p>

洛陽工業高校・伏見工業高校の産学連携等の主な取組状況（平成 19 年度～）

3 コンテスト等の主な実績

洛陽工業	伏見工業
<p>・「全国ソーラーラジコンコンテスト in 白山」 高校生らがアイデアと機械工作技術を競う「全国ソーラーラジコンカーコンテスト」において、太陽光だけで走る手作りのソーラーラジコンカーで平成 19・20 年度と 2 年連続で全国優勝、平成 21 年度は第 3 位、平成 22 年度は準優勝。また、ソーラーラジコンカーによる耐久レース「サンシャインレース松山 2010」においても、4 位入賞を果たしている。</p> <p>・「ロボカップジュニア・ジャパンオープン・サッカーチャレンジ」 生徒の好奇心や探究心を引き出すことを目的に、ロボット性能やチームワークを競い合うサッカーロボット競技に出場、平成 19 年度は第 6 位、平成 20 年度は 7 位に入賞。</p> <p>・「全国高等学校ロボット競技大会」 創造力を発揮して新鮮な発想で工夫を凝らし、仲間と協力しながらロボットを製作することで、高度な技術・技能を習得、「ものづくり」への興味・関心を高めことを目的に開催される大会で、平成 20 年度には京都府大会で定時制の生徒が優勝。</p>	<p>・「グローバル・エンタープライズ・チャレンジ」 世界の青少年が科学技術の知識、創造性などを競い合う国際大会において、平成 21 年度の国内大会で「農業の企業化」をコンセプトにした事業モデルを提案して最優秀賞を受賞し、日本代表として世界大会に出場。さらに、平成 23 年度も国内大会で最優秀賞を受賞、日本代表として世界大会に出場し、Creativity 賞を受賞。</p> <p>・「夢★躍動ものづくり大賞」 平成 23 年 6 月、京都機械金属中小企業青年連絡会が設立 30 周年記念において、「京都を元気にする 10 年後のものづくり」をテーマにアイデアを募り、「京都バーチャルミュージアム」と題したプレゼンテーション発表を行い、ものづくり大賞（京都府知事賞）を受賞。</p> <p>・「高校生ものづくりコンテスト全国大会(測量部門)」 ものづくり学習の成果発表の場として、全国の高校生が一堂に会して技術・技能を競い合う大会の測量部門において、平成 19、22 年度に近畿大会で優勝を果たし、全国大会に出場している。</p> <p>・「地理空間情報フォーラム」「G空間 EXPO」「高知工科大学測量コンテスト」 平成 21 年度、同フォーラムにおいて、社会人の技術者や大学生も参加す</p>

・「環境プレゼンテーション」への参加

京都青年会議所主催の「低炭素社会の実現に向けて」のイベントにおいて、太陽光発電及び風力発電の相互運用の取組について、環境プレゼンテーションを実施した。

中、高校生として初参加で初優勝の快挙を果たしている。さらに、平成22年度の「G空間EXPO」フォーラムにおいても2チームが出場し、同時優勝に輝いている。また、高知工科大学で実施されている測量コンテスト精密機器使用部門において、平成20・21年度と2年連続で技能賞と敢闘賞を受賞。

・建設技術展「橋梁模型製作コンテスト」

橋梁模型の完成度・技術度・デザイン性・経済性を競い合うコンテストで、大学生や高校生、高等専門学校生が参加する中、平成19年度には最優秀賞と人気特別賞を受賞。平成22年度も42チームが参加した中で、優秀賞を受賞。

洛陽工業高校・伏見工業高校における入学者選抜の状況

【全日制】

洛陽工業高校

入学年度	募集定員 ①	推薦入学		一般選抜			合格者 計 ⑥ ③+⑤	欠員 ⑥-①
		出願者 ②	合格内定者 ③	残定員 ①-③	出願者 ④	合格者 ⑤		
平成17年度	200	245	116	84	126	84	200	0
平成18年度	200	210	116	84	109	84	200	0
平成19年度	160	167	95	65	87	65	160	0
平成20年度	180	186	107	73	85	73	180	0
平成21年度	180	191	107	73	88	73	180	0
平成22年度	180	195	107	73	99	73	180	0
平成23年度	180	208	107	73	98	73	180	0

※ 推薦入学における合格内定者数は、募集定員の50%程度としている。

※ 平成18年度までは、学科(群)別の募集、志願及び合格決定を行っているが、上記表では、合計数を計上している。

伏見工業高校

入学年度	募集定員 ①	推薦入学		一般選抜			合格者 計 ⑥ ③+⑤	欠員 ⑥-①
		出願者 ②	合格内定者 ③	残定員 ①-③	出願者 ④	合格者 ⑤		
平成17年度	200	220	115	85	119	85	200	0
平成18年度	200	274	115	85	140	85	200	0
平成19年度	160	214	95	65	100	65	160	0
平成20年度	160	171	95	65	77	65	160	0
平成21年度	160	176	95	65	90	65	160	0
平成22年度	160	216	95	65	116	65	160	0
平成23年度	170	175	101	69	90	69	170	0

※ 推薦入学における合格内定者数は、募集定員の50%程度としている。

※ 平成18年度までは、学科(群)別の募集、志願及び合格決定を行っているが、上記表では、合計数を計上している。

【定時制】

伏見工業高校 昼間

入学年度	募集定員 ①	適性検査	推薦入学		一般選抜			合格者 計 ⑦ ④+⑥	欠員 ⑦-①
		出願者 ②	出願者 ③	合格内定者 ④	残定員 ①-④	出願者 ⑤	合格者 ⑥		
平成19年度	30	90	61	17	13	11	11	28	▲2
平成20年度	30	65	43	17	13	13	13	30	0
平成21年度	30	68	49	17	13	13	13	30	0
平成22年度	30	77	45	17	13	12	12	29	▲1
平成23年度	20	52	39	11	9	9	9	20	0

※ 推薦入学における合格内定者数は、募集定員の50%程度としている。

伏見工業高校 夜間

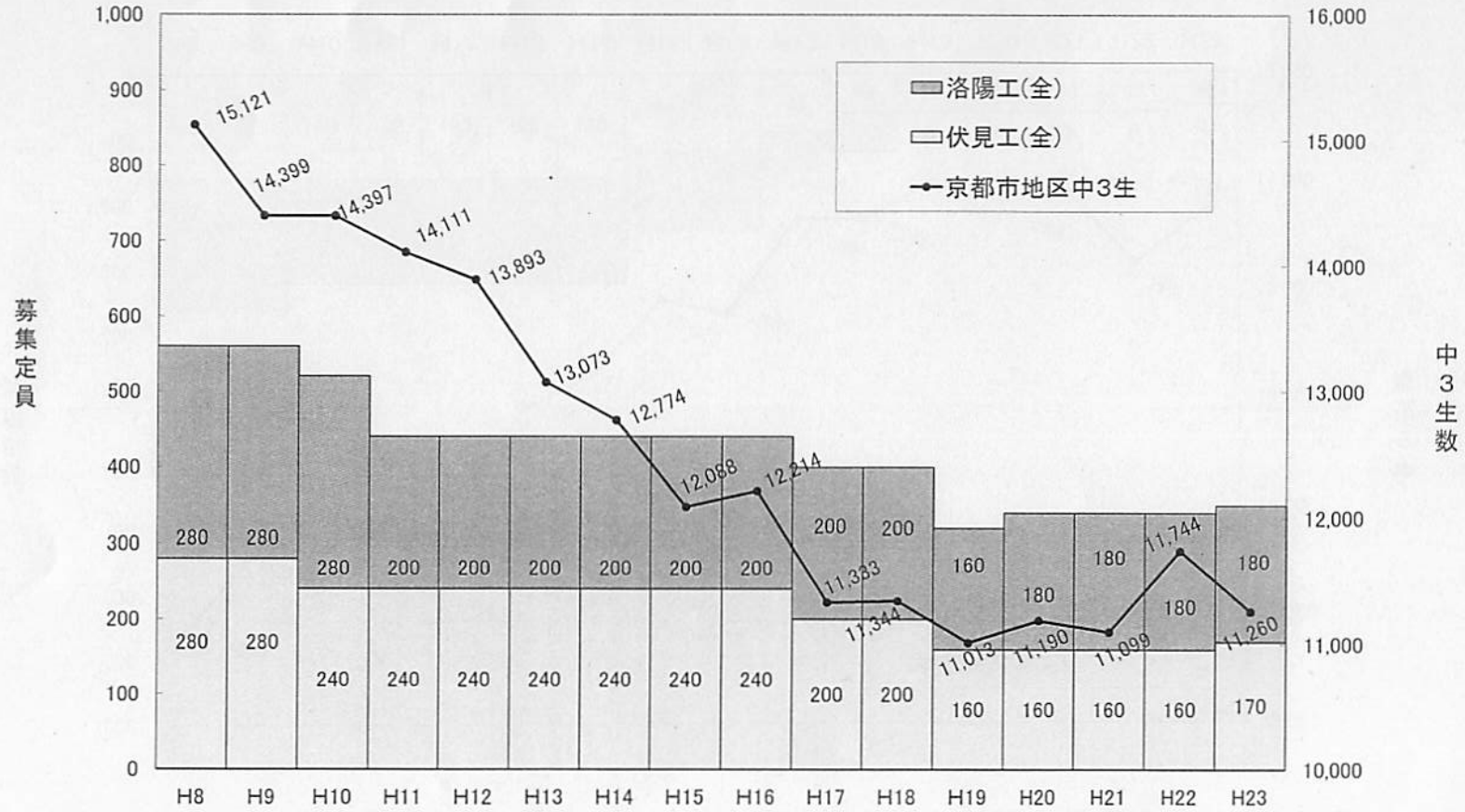
入学年度	募集定員 ①	一般選抜(1次)		一般選抜(2次)			合格者 計 ⑥ ③+⑤	欠員 ⑥-①
		出願者 ②	合格者 ③	残定員 ①-③	出願者 ④	合格者 ⑤		
平成17年度	90	65	64	26	29	26	90	0
平成18年度	60	33	30	30	12	12	42	▲18
平成19年度	30	36	30	0			30	0
平成20年度	30	49	13	17	27	17	30	0
平成21年度	30	35	14	16	19	16	30	0
平成22年度	30	32	18	12	17	13	31	1
平成23年度	30	23	22	8	5	5	27	▲3

※ 志願者は同校定時制を第1志望として挙げた者を計上、合格者は第2志望者も含んだ総合格者数。

※ 合格者のうち、辞退者若干名を含む。

※ 平成20・21・22年度は、一般選抜(1次募集)で15名程度、第2次募集で15名程度を募集している。

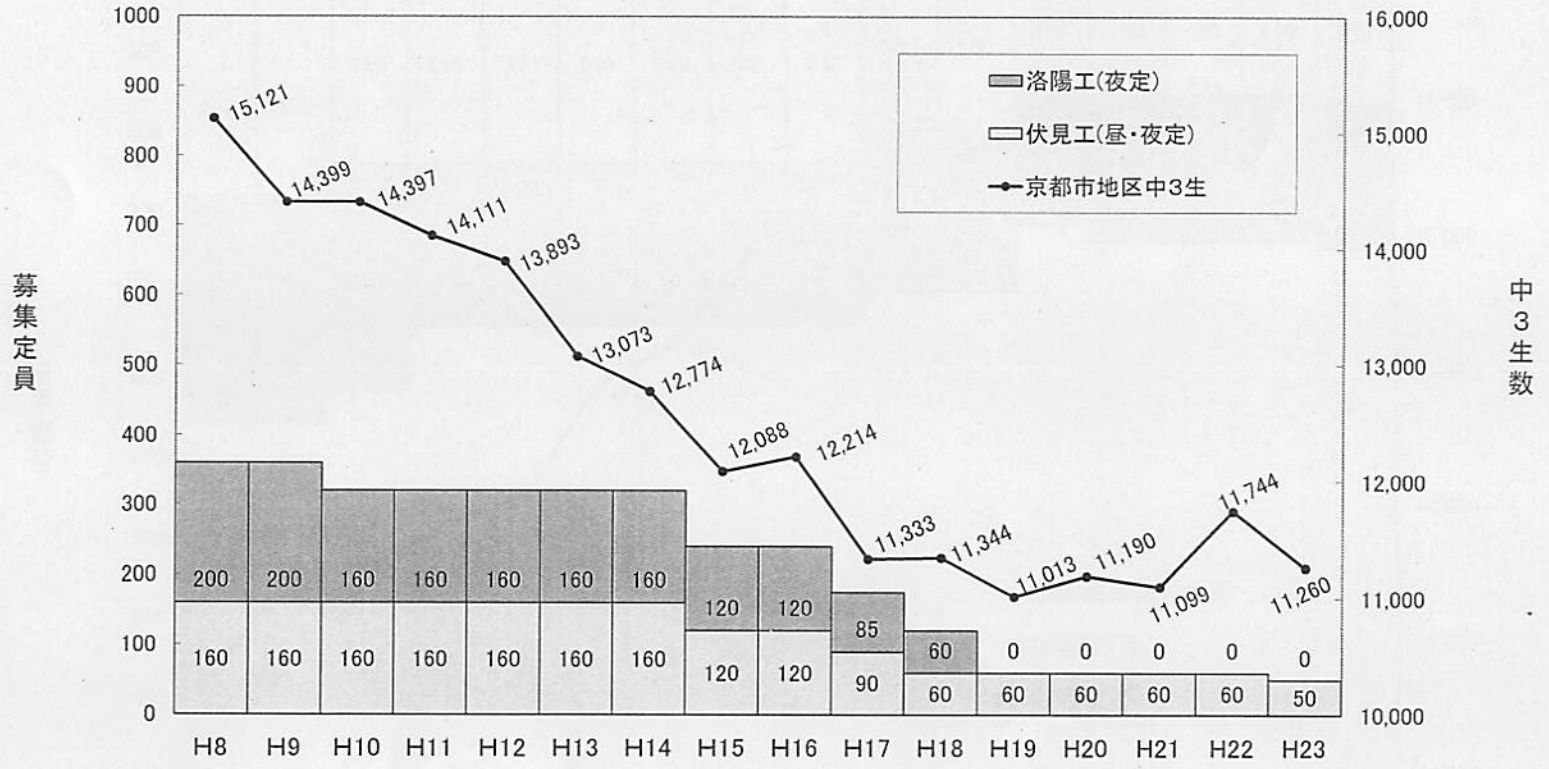
京都市地区中学校3年生生徒数及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【全日制】



高校入学年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
定員比率 (募集定員/中3生数)	3.7%	3.9%	3.6%	3.1%	3.2%	3.4%	3.4%	3.6%	3.6%	3.5%	3.5%	2.9%	3.0%	3.1%	2.9%	3.1%

資料14

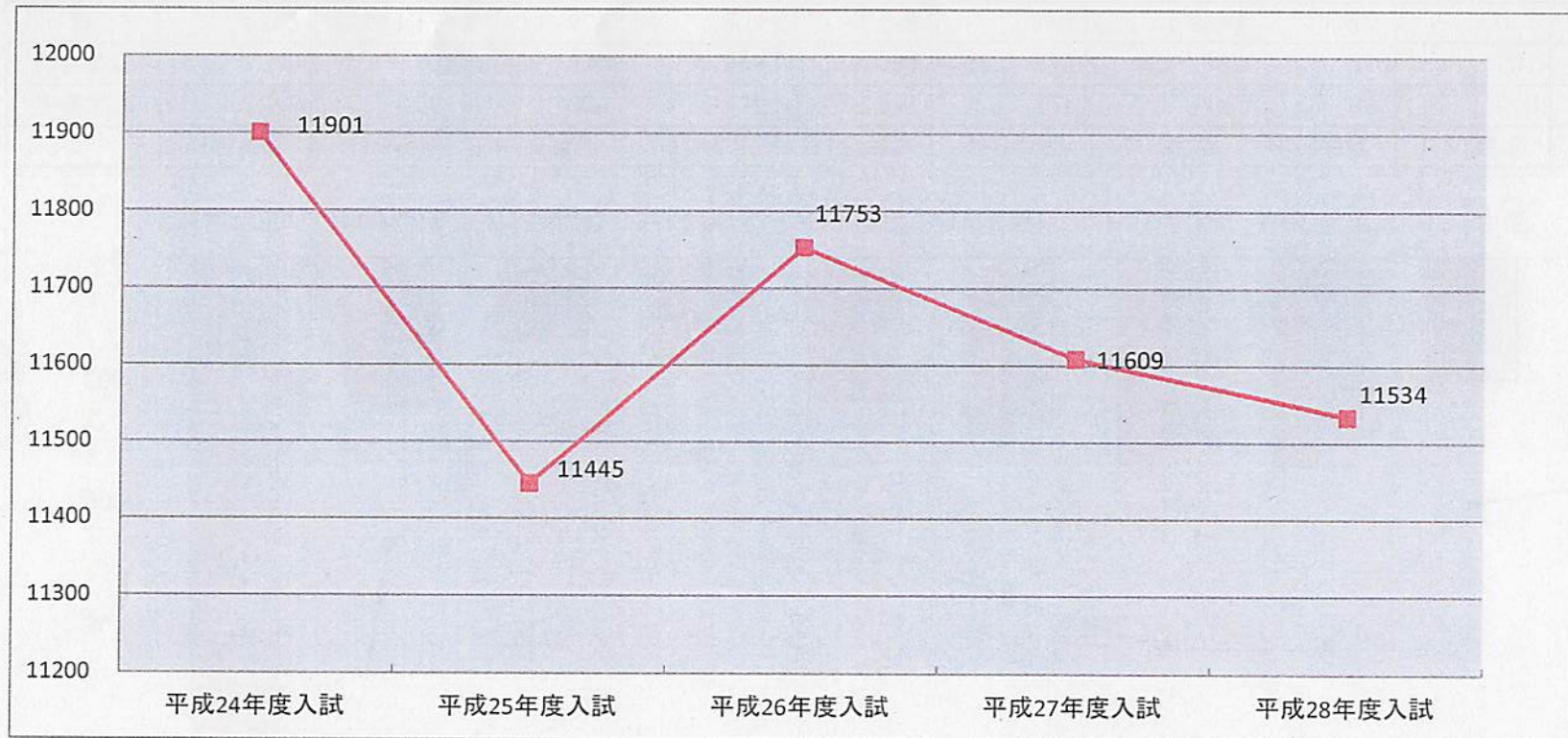
京都市地区中学校3年生生徒数及び 洛陽・伏見工業高校 生徒募集定員の推移【定時制】



高校入学年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
定員比率 (募集定員/中3生数)	2.4%	2.5%	2.2%	2.3%	2.3%	2.4%	2.5%	2.0%	2.0%	1.5%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.4%

京都市地区通学圏※の中学校3年生数の推移(今後5年間)

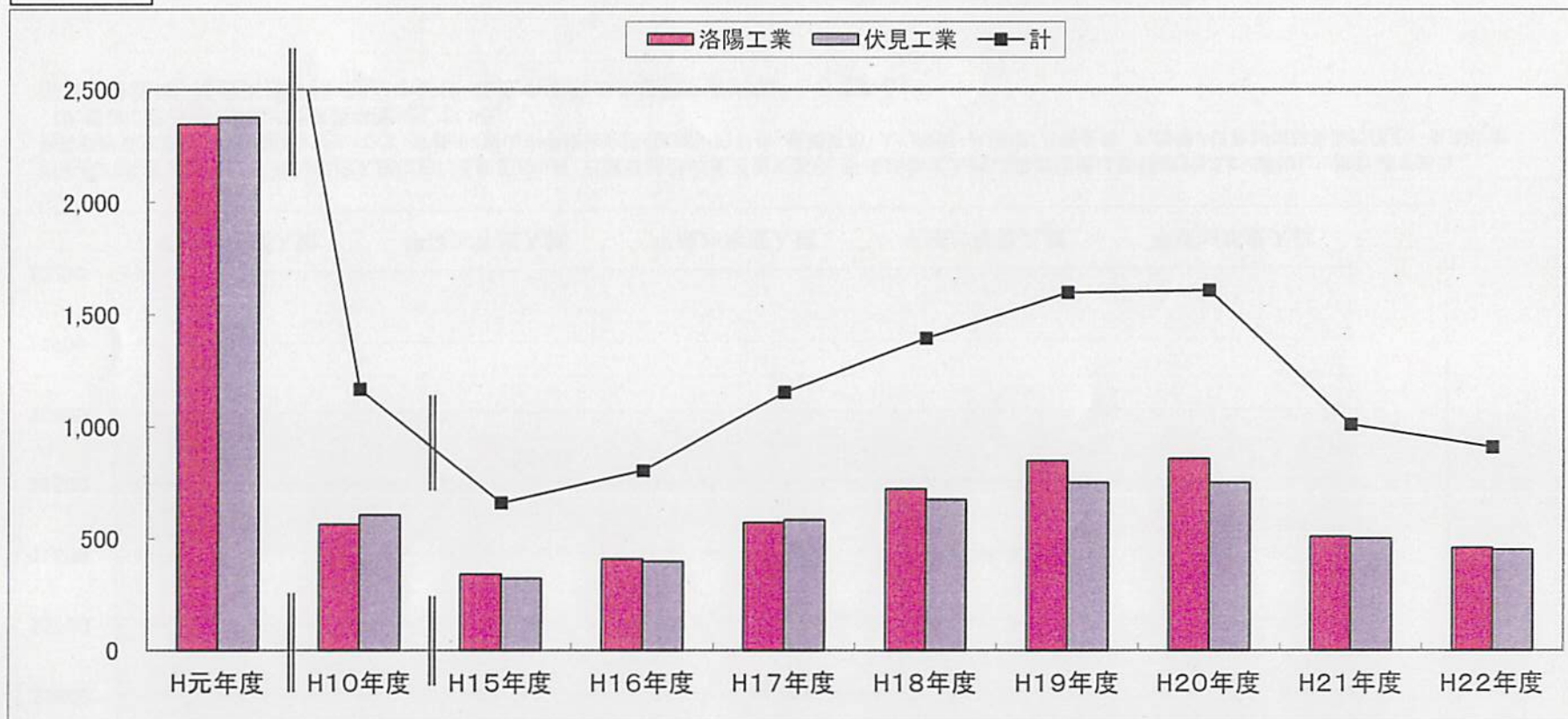
単位:人



※平成23年度入試及び平成24年度入試における数値は5月1日教育統計の確定値であり、平成25年度入試以降の数値は各種統計により算出した推計値である。
※京都府公立高校入学者選抜においては、京都市(周山中学校区を除く区域)・向日市・長岡京市・大山崎町・八幡市(八幡長町、八幡樋ノ口及び川口高原に限る)・久御山町(大橋辺に限る)を「京都市地区通学圏」としている。
※上記数値は、総合支援学校・国立中学校・私立中学校の生徒数を含まないものである。

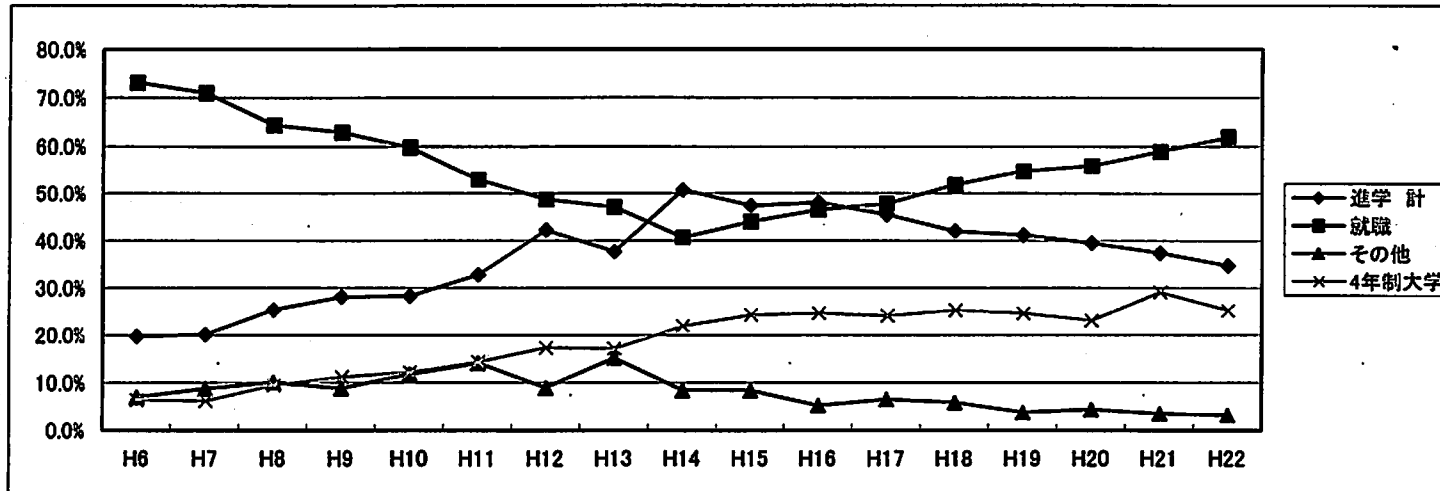
資料16

洛陽工業高校・伏見工業高校 企業等からの求人状況の推移



	H元年度	H10年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
洛陽工業	2,346	564	339	408	571	721	849	859	510	460
伏見工業	2,376	605	320	396	584	673	750	750	501	451
計	4,722	1,169	659	804	1,155	1,394	1,599	1,609	1,011	911
(指数)	100	25	14	17	24	30	34	34	21	19

洛陽工業高校・伏見工業高校 卒業後の進路状況【全日制】

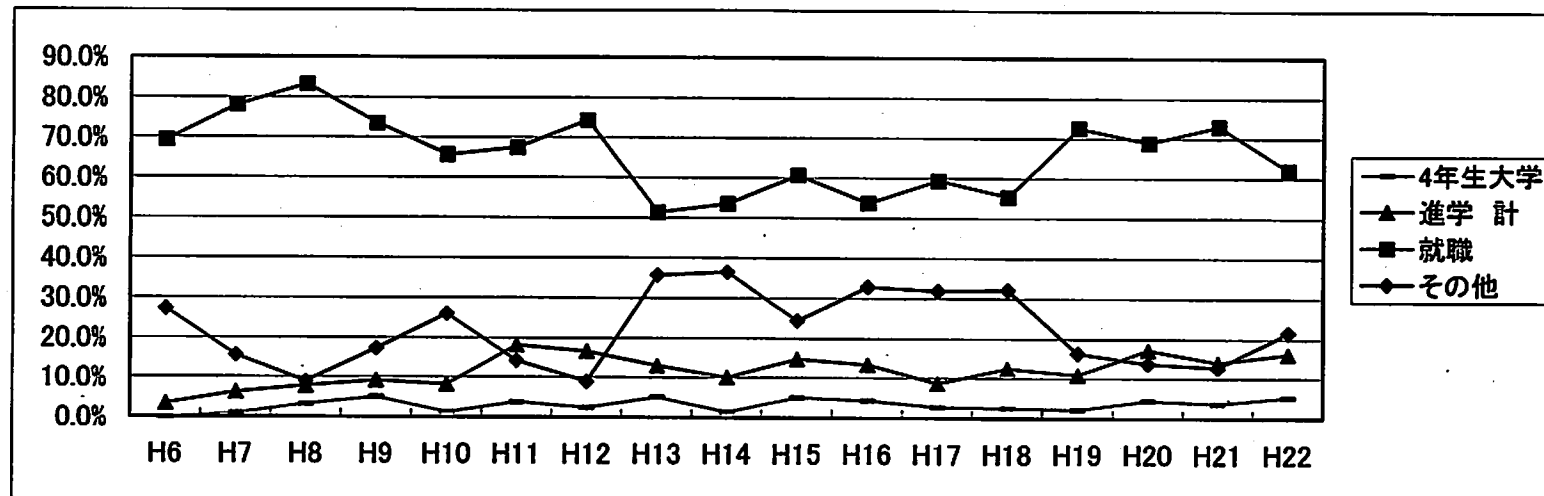


【工業(全日制)2校 計】

卒業年度	4年制大学		短大・専修学校等		進学計		就職		その他		計
H6	32	6.5%	66	13.3%	98	19.8%	362	73.1%	35	7.1%	495
H7	30	6.3%	66	13.9%	96	20.2%	338	71.0%	42	8.8%	476
H8	48	9.5%	80	15.9%	128	25.4%	324	64.4%	51	10.1%	503
H9	54	11.2%	82	17.0%	136	28.2%	304	62.9%	43	8.9%	483
H10	59	12.2%	78	16.1%	137	28.4%	289	59.8%	57	11.8%	483
H11	66	14.3%	85	18.5%	151	32.8%	244	53.0%	65	14.1%	460
H12	81	17.3%	117	25.0%	198	42.3%	228	48.7%	42	9.0%	468
H13	86	17.2%	103	20.6%	189	37.7%	236	47.1%	76	15.2%	501
H14	83	22.0%	109	28.8%	192	50.8%	154	40.7%	32	8.5%	378
H15	95	24.4%	90	23.1%	185	47.4%	172	44.1%	33	8.5%	390
H16	97	24.7%	92	23.4%	189	48.1%	183	46.6%	21	5.3%	393
H17	95	24.2%	84	21.4%	179	45.5%	188	47.8%	26	6.6%	393
H18	106	25.4%	70	16.7%	176	42.1%	217	51.9%	25	6.0%	418
H19	89	24.7%	60	16.6%	149	41.3%	198	54.8%	14	3.9%	361
H20	83	23.1%	59	16.4%	142	39.6%	201	56.0%	16	4.5%	359
H21	81	29.1%	23	8.3%	104	37.4%	164	59.0%	10	3.6%	278
H22	77	25.2%	29	9.5%	106	34.8%	189	62.0%	10	3.3%	305

資料18

洛陽工業高校・伏見工業高校 卒業後の進路状況【定時制】

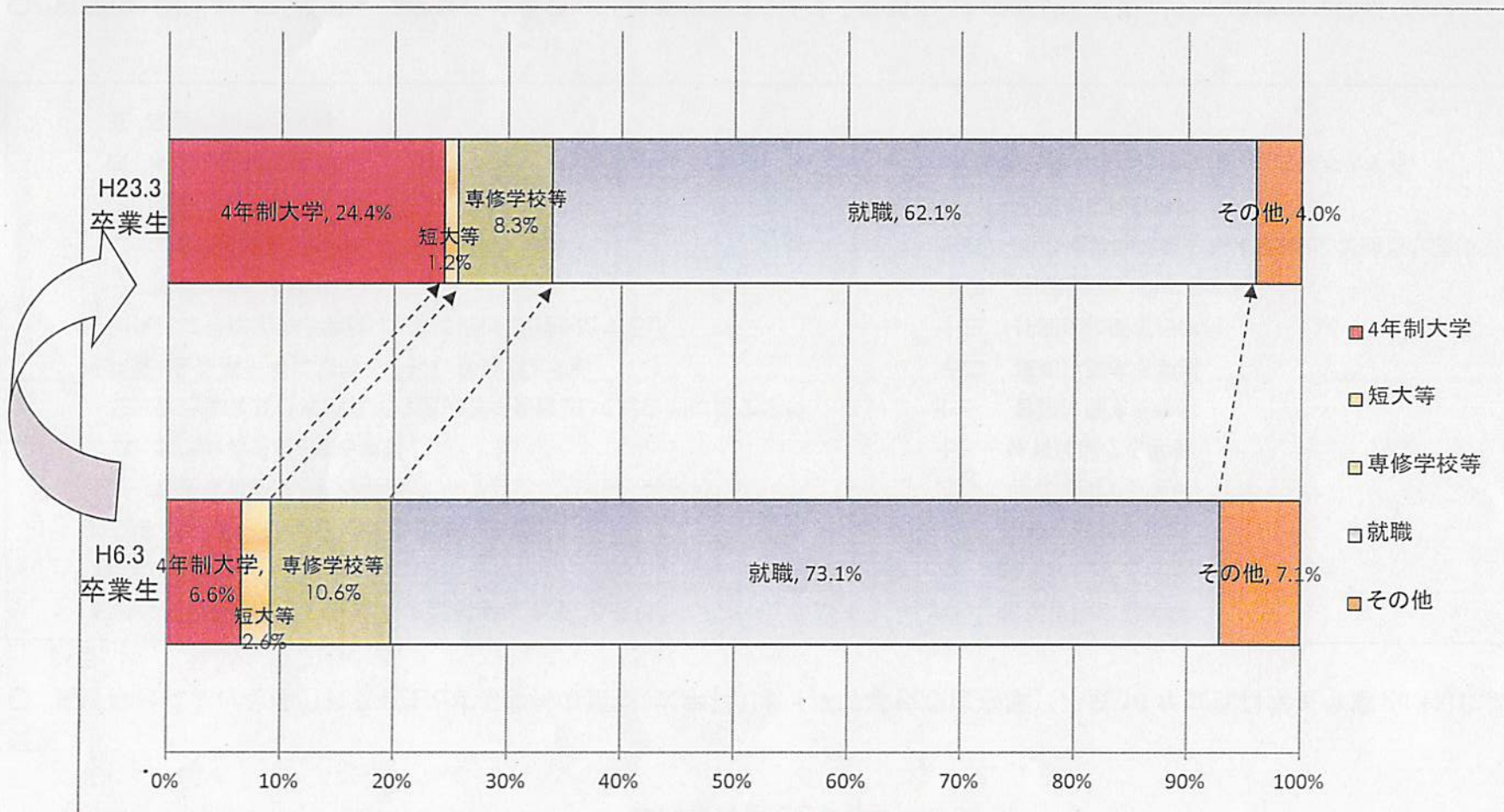


【工業(定時制)2校 計】

卒業年度	4年制大学		短大・専修学校等		進学計		就職		その他		計
H6	0	0.0%	3	3.4%	3	3.4%	61	69.3%	24	27.3%	88
H7	1	1.0%	5	5.2%	6	6.3%	75	78.1%	15	15.6%	96
H8	3	3.3%	4	4.4%	7	7.8%	75	83.3%	8	8.9%	90
H9	5	5.1%	4	4.1%	9	9.2%	72	73.5%	17	17.3%	98
H10	1	1.4%	5	6.8%	6	8.2%	48	65.8%	19	26.0%	73
H11	3	3.9%	11	14.3%	14	18.2%	52	67.5%	11	14.3%	77
H12	2	2.6%	11	14.1%	13	16.7%	58	74.4%	7	9.0%	78
H13	6	5.2%	9	7.8%	15	13.0%	59	51.3%	41	35.7%	115
H14	2	1.6%	11	8.5%	13	10.1%	69	53.5%	47	36.4%	129
H15	7	5.2%	13	9.6%	20	14.8%	82	60.7%	33	24.4%	135
H16	6	4.5%	12	9.0%	18	13.4%	72	53.7%	44	32.8%	134
H17	4	2.9%	8	5.8%	12	8.7%	82	59.4%	44	31.9%	138
H18	3	2.7%	11	9.8%	14	12.5%	62	55.4%	36	32.1%	112
H19	3	2.3%	11	8.6%	14	10.9%	93	72.7%	21	16.4%	128
H20	4	4.6%	11	12.6%	15	17.2%	60	69.0%	12	13.8%	87
H21	3	3.8%	8	10.3%	11	14.1%	57	73.1%	10	12.8%	78
H22	2	5.4%	4	10.8%	6	16.2%	23	62.2%	8	21.6%	37

資料19

洛陽工業高校・伏見工業高校 全日制生徒の卒業後進路の変化（平成6年3月・平成23年3月卒業生比較）



資料20

専門教育を主とする学科について

<概要>

- 高等学校における専門教育を主とする学科の類型(大学科)は、「高等学校設置基準」(平成16年文部科学省令第20号)により規定されている。

[高等学校設置基準(平成16年文部科学省令第20号)]

(学科の種類)

第五条 高等学校の学科は次のとおりとする。

- 一 普通教育を主とする学科
- 二 専門教育を主とする学科
- 三 普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科

第六条 全条第一号に定める学科は普通科とする

2 前条第二号に定める学科は、次に掲げるとおりとする。

- 一 農業に関する学科
- 二 工業に関する学科
- 三 商業に関する学科
- 四 水産に関する学科
- 五 家庭に関する学科

六 看護に関する学科

七 情報に関する学科

八 福祉に関する学科

九 理数に関する学科

十 体育に関する学科

十一 音楽に関する学科

十二 美術に関する学科

十三 外国語に関する学科

十四 国際関係に関する学科

十五 その他専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科

3 前条第三号に定める学科は、総合学科とする。

- 以前は、国によって「高等学校学習指導要領」に「職業教育を主とする学科のうち標準的なもの」として具体的な学科(機械科、電気科、土木科などの小学科)が示されていた。しかし、地域や学校の実情に応じた特色ある学科の設置が促されるようになり、高等学校学習指導要領については平成15年度の施行分から、高等学校設置基準については平成16年度の改正から小学科が示されなくなった。

資料21

工業に関する専門学科の教育課程の特徴

洛陽工業高校

1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
国語総合			地理A		数学 I			理科総合A			英語 I			専門教科												体育	保健	芸術	特別活動		
														コア科目			工業														

伏見工業高校 全日制

1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
国語総合			地理A		数学 I			理科総合A		英語 I			専門教科										体育	保健	芸術 I	家庭基礎	特別活動			
													コア科目			工業														

市立高校 普通科Ⅱ類(文理系)

1年生

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
国語総合				現代社会		数学 I			数学A		理科総合A		英語 I		英語活用基礎			体育		保健	芸術 I		家庭基礎		情報A		総合	特別活動			

資料 22

京都府内公立高校募集定員及び工業に関する専門学科の募集定員（平成24年度選抜）

課程	学科	定員（人）	工業に関する学科	
			定員（人）	割合（％）
全日制	普通科	10,600		
	専門学科	2,920		
	総合学科	300		
	計	13,820		
定時制	普通科	570		
	専門学科	160		
	計	730	50	6.8
通信制	普通科	280		
	計	280		
合計		14,830	770	5.2

※上記定員には、公立中高一貫校（府立洛北高等学校附属中学校80人、府立園部高等学校附属中学校40人、市立西京高等学校附属中学校120人）の定員を含まない。

※専門学科には、他に農業、商業、水産、家庭、情報、福祉、体育、音楽、美術、外国語等に関する学科がある。

【参考】工業に関する学科（全日制）

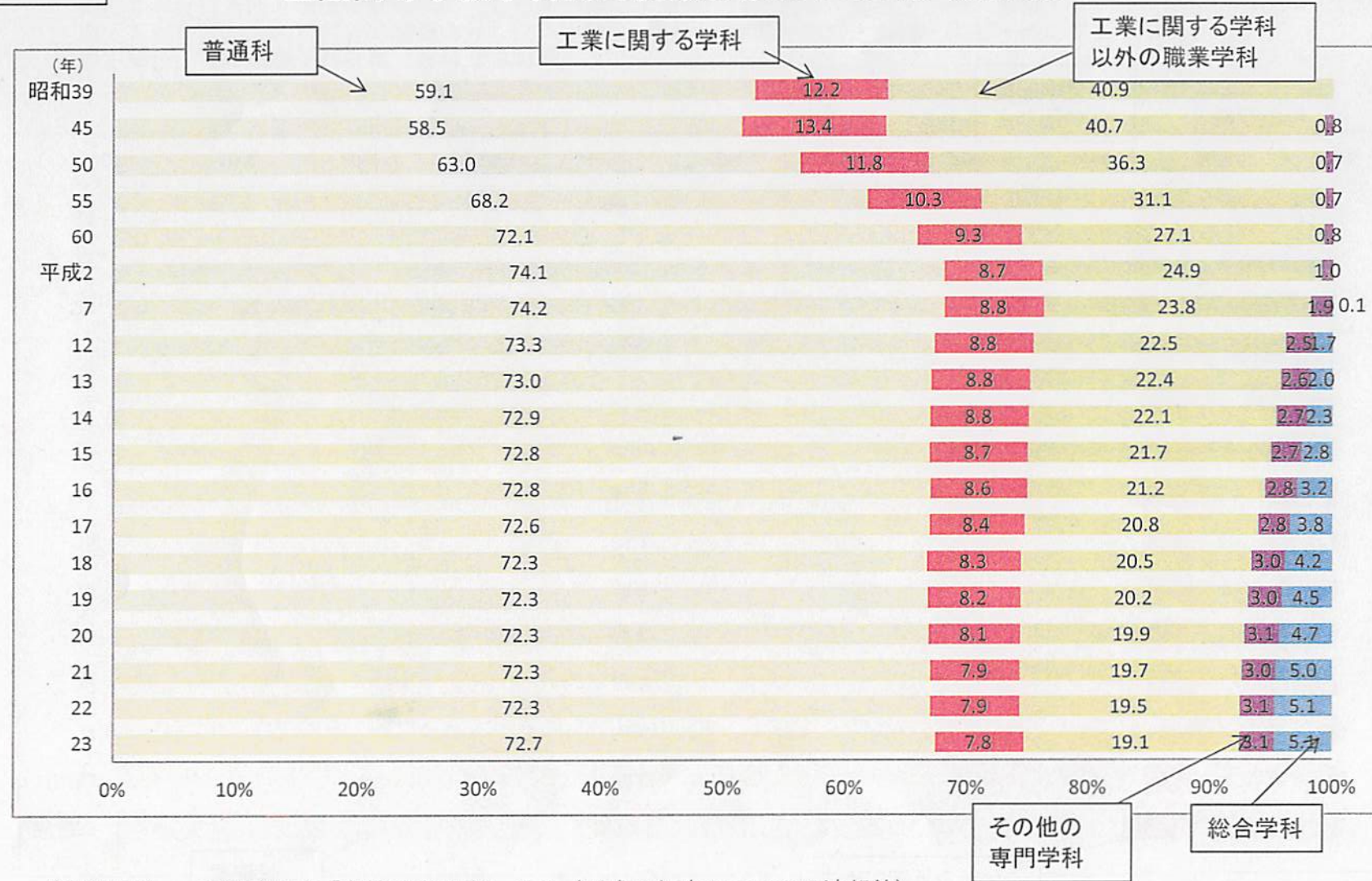
高等学校名	学科名	系統名	定員（人）
田辺	工業技術		90
	自動車		30
工業	機械プランニング		36
	生産システム		36
	電気エネルギー		36
	電子コミュニケーション		36
	情報システム		36
宮津	建築		30
峰山	産業工学	機械	30
		デザイン	10
洛陽工業	創造技術		180
伏見工業	システム工学		170
合計			720

【参考】工業に関する学科（定時制）

高等学校名	学科名	系統名	定員（人）
伏見工業	昼間	システム工学 (キャリア実践コース)	20
	夜間	工業技術	30
合計			50

資料 23

全国高等学校学科別生徒数の推移(全日制・定時制)



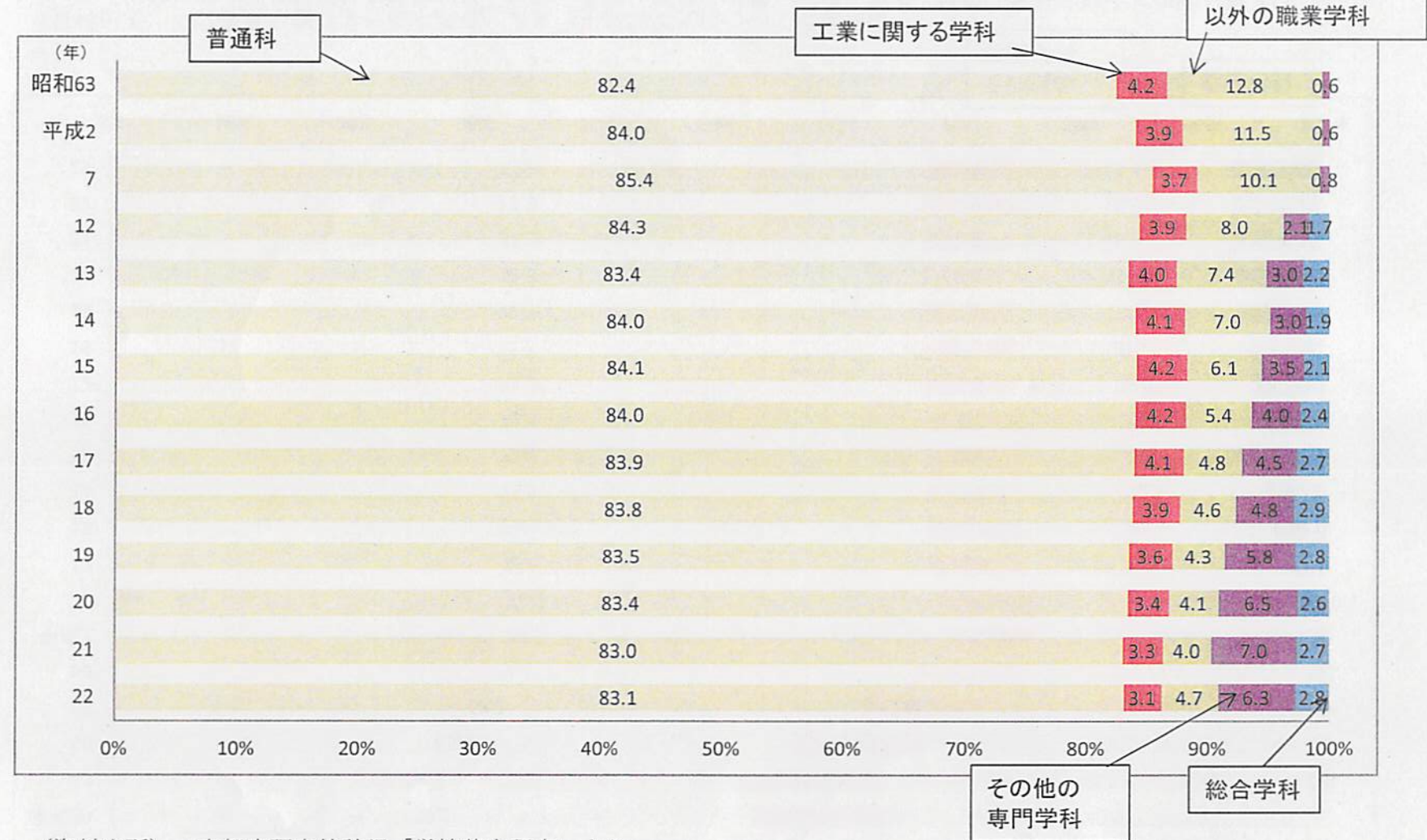
(資料出所) 文部科学省「学校基本調査」より(平成23年度については速報値)

※「工業に関する学科以外の職業学科」には、農業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉に関する学科がある。

※総合学科は平成6年度に制度化。「その他の専門学科」には、理数・体育・音楽・美術・外国語・国際関係等の学科がある。

資料 24

京都府高等学校学科別生徒数の推移(全日制・定時制)



(資料出所) 京都府調査統計課「学校基本調査」より
 ※「工業に関する学科以外の職業学科」には、農業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉に関する学科がある。
 ※総合学科は平成6年度に制度化。「その他の専門学科」には、理数・体育・音楽・美術・外国語・国際関係等の学科がある。

資料25

京都市立高校における中途退学の主な理由（平成20年度～平成22年度）

<平成20年度>

全 日 制			定 時 制		
1	進路変更	23人(52.3%)	1	学校生活・学業不適合	11人(35.5%)
2	学校生活・学業不適合	11人(25.0%)	2	進路変更	7人(22.6%)
3	学業不振	4人(9.1%)	3	家庭の事情	6人(19.4%)

<平成21年度>

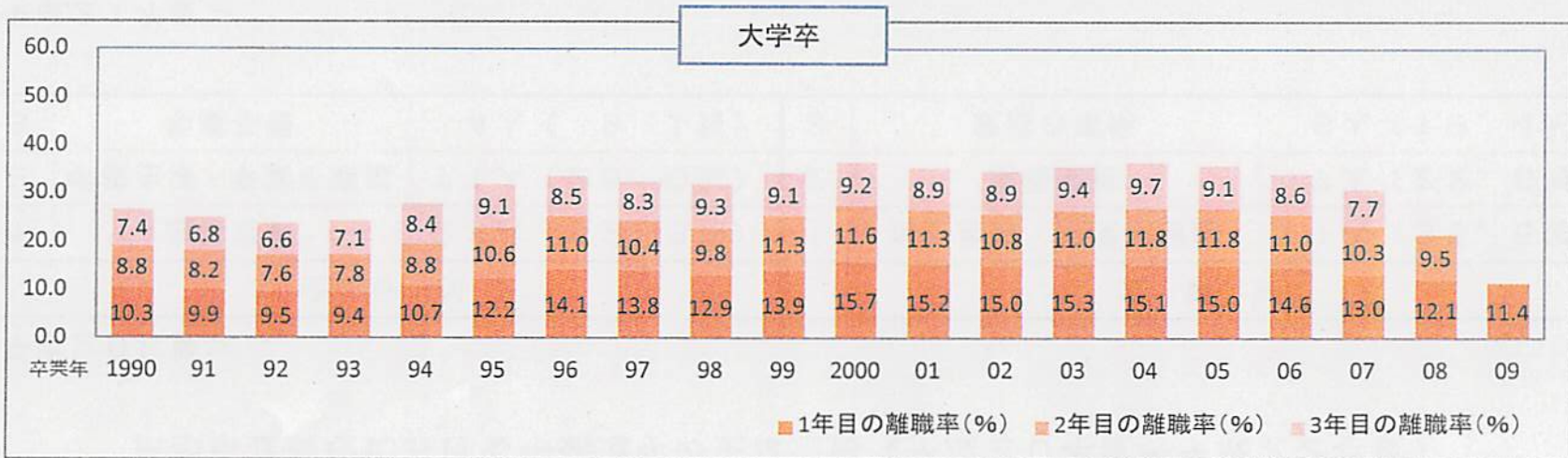
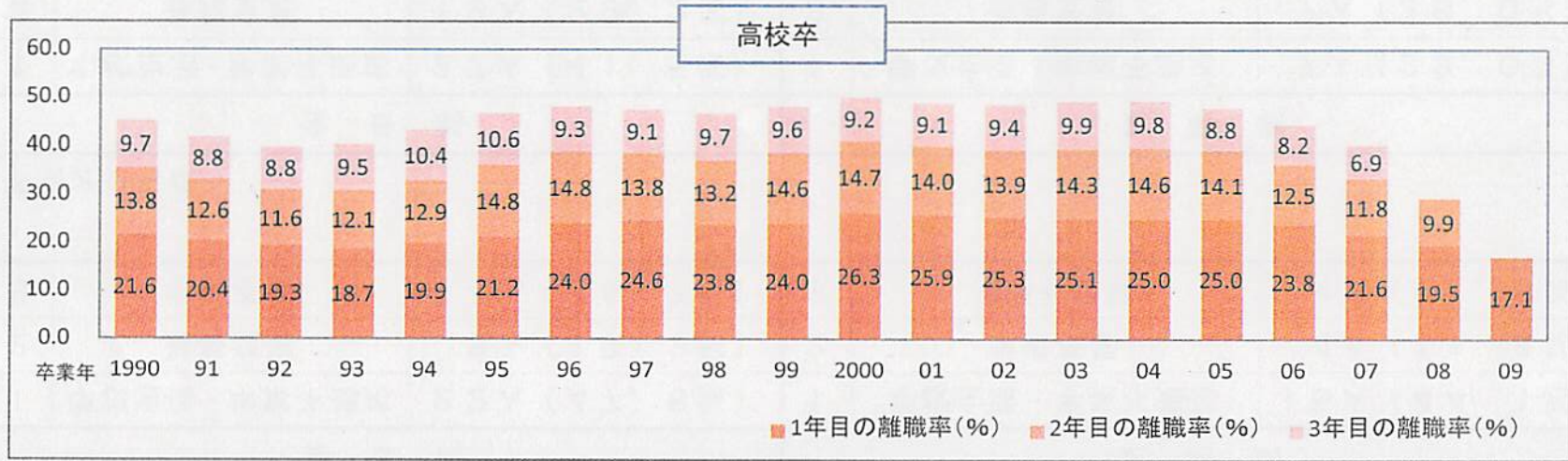
全 日 制			定 時 制		
1	学校生活・学業不適合	22人(47.8%)	1	学校生活・学業不適合	15人(44.1%)
2	進路変更	8人(17.3%)	2	学業不振	4人(11.8%)
3	学業不振	4人(8.7%)	3	問題行動等	4人(11.8%)

<平成22年度>

全 日 制			定 時 制		
1	学校生活・学業不適合	27人(41.5%)	1	学校生活・学業不適合	7人(28.0%)
2	進路変更	19人(29.2%)	2	進路変更	7人(28.0%)
3	学業不振	8人(12.3%)	3	学業不振	4人(16.0%)

資料 26

新規学卒者の在職期間別離職率の推移



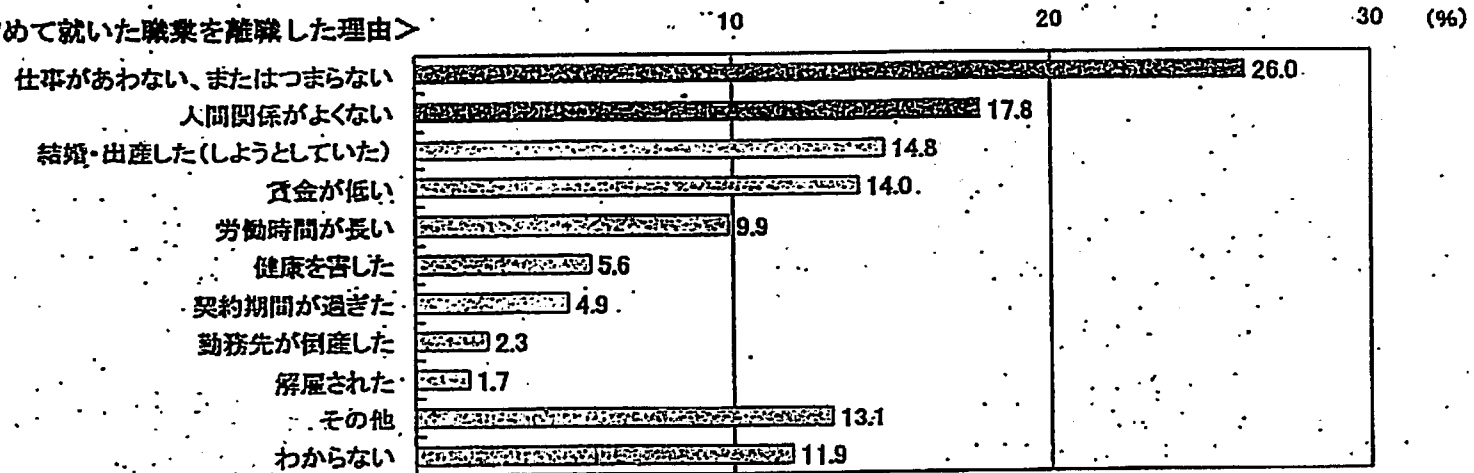
(資料出所) 平成23年度労働経済白書(厚生労働省職業安定局集計)

※離職率は厚生労働省が管理している雇用保険被保険者の記録をもとに算出したものであり、新規に被保険者資格を取得した年月日と生年月日により各学歴に区分している。

新規学卒者の離職理由

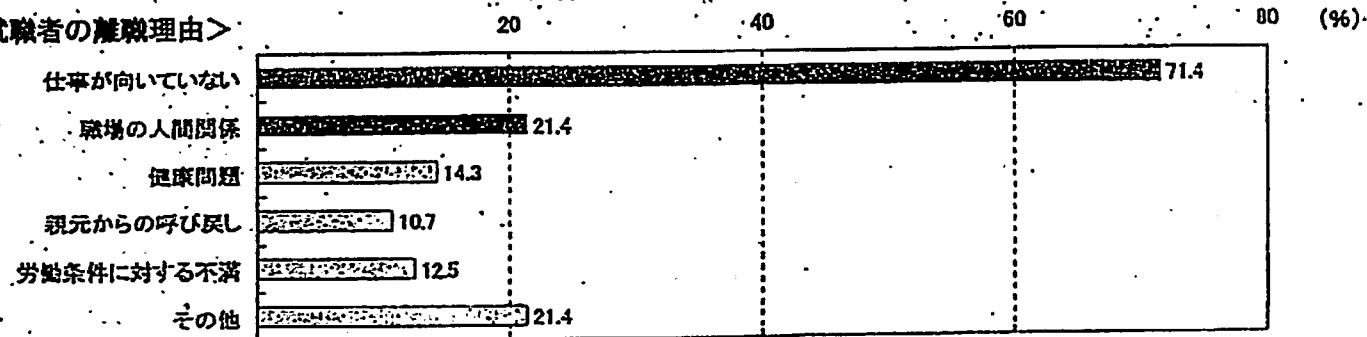
「仕事があわない、つまらない」「人間関係がよくない」が離職理由の上位

<初めて就いた職業を離職した理由>



資料: 内閣府「青少年の社会的自立に関する意識調査」(平成16年度)

<新規高卒就職者の離職理由>



資料: 東京経営者協会「平成21年3月新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」

資料28

新規学卒者(全日制高校工業科)の離職状況

地 域	離職率 累計 (%)			離職時期 不明 (%)	3年以内 の離職率 (%)
	1年まで	2年まで	3年まで		
静岡県	5.1%	9.9%	13.9%	2.7%	16.6%
愛知県	7.7%	13.5%	18.4%	1.8%	20.1%
三重県	6.9%	11.5%	14.1%	0.0%	14.1%
岐阜県	11.0%	14.3%	17.7%	0.0%	17.7%
東海地区	7.7%	12.6%	16.6%	1.4%	18.0%

(資料出所) 平成23年3月 工業教育(社団法人 全国工業高等学校校長協会 編集)

※平成18年度卒業生(平成19年4月入社)の機械系と電機系を併設する東海地方の全日制工業高校を対象に調査を実施したもの。

※調査については、企業及び卒業生に対し、郵送や訪問、電話・FAXを使用して情報収集をされたもの。

※離職時期不明は、3年以内に離職しているが、時期が確定していない者の数を%で表したもの。

新規学卒者(全日制高校工業科)の離職理由

内 容		静岡県	愛知県	三重県	岐阜県	合計	合計比率
離 職 理 由	① 仕事の適性	11	28	6	16	61	15.1%
	② 職場の人間関係	12	8	5	11	36	8.9%
	③ 安易な選択	3	12	2	4	21	5.2%
	④ 辛抱の無さ	1	5	2	2	10	2.5%
	⑤ 会社の要求についていけない	5	0	1	5	11	2.7%
	⑥ 入社条件等会社に原因	4	2	2	3	11	2.7%
	⑦ 保護者の理解不足	0	1	0	0	1	0.3%
	⑧ 転職	4	26	2	6	38	9.4%
	⑨ 進学	7	10	5	2	24	5.9%
	⑩ 家事都合	0	7	0	7	14	3.5%
	⑪ 結婚	3	6	3	1	13	3.2%
	⑫ 一身上	13	58	7	24	102	25.3%
	⑬ その他	9	2	0	4	15	3.7%
	⑭ 不明	20	18	2	7	47	11.6%
合 計		92	183	37	92	404	100.0%

(資料出所) 平成23年3月 工業教育(社団法人 全国工業高等学校校長協会 編集)

※平成18年度卒業生(平成19年4月入社)の機械系と電機系を併設する東海地方の全日制工業高校を対象に調査を実施したもの。

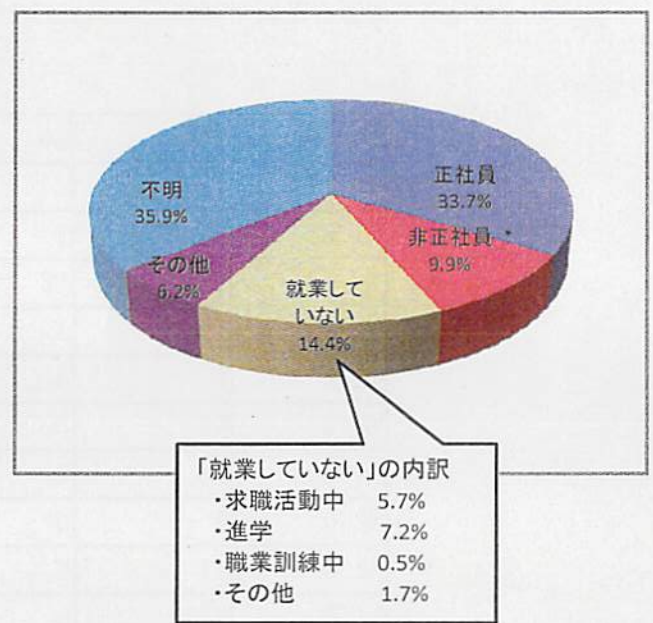
※「⑬その他」については、自己都合・倒産・健康上・死亡等の理由がある。

※調査については、企業及び卒業生に対し、郵送や訪問、電話・FAXを使用して情報収集されたもの。

資料30

新規学卒者(全日制高校工業科)の離職後の就職状況

	離職後の状況	静岡県	愛知県	三重県	岐阜県	合計	合計比率
①	正社員	37	42	11	46	136	33.7%
②	非正社員	14	16	3	7	40	9.9%
③	就業していない	16	26	9	7	58	14.4%
	・求職活動中	6	12	2	3	23	5.7%
	・進学	9	11	6	3	29	7.2%
	・職業訓練中	0	1	0	1	2	0.5%
	・その他	1	2	4	0	7	1.7%
④	その他	1	16	1	7	25	6.2%
⑤	不明	24	83	13	25	145	35.9%
	合 計	92	183	37	92	404	100.0%



(資料出所) 平成23年3月 工業教育(社団法人 全国工業高等学校校長協会 編集)

※平成18年度卒業生(平成19年4月入社)の機械系と電機系を併設する東海地方の全日制工業高校を対象に調査を実施したもの。

※調査については、企業及び卒業生に対し、郵送や訪問、電話・FAXを使用して情報収集をされたもの。

資料31

洛陽工業高校における資格・検定等の取得状況について(平成20年度～平成22年度)

検定・資格等の名称	等級	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)
電気主任技術者	3種					6	0
電気工事士	1種					6	4
	2種	33	9	23	12	56	10
工事担任者	DD第3種	19	2	26	7	15	2
ガス溶接技能講習		52	52	46	46	31	31
アーク溶接特別教育修了者		53	53	50	50	33	33
危険物取扱者	乙種1類			2	2	2	1
	乙種2類			1	1		
	乙種3類			2	1		
	乙種4類	30	3	86	14	47	7
	乙種5類	1	1				
	乙種6類			1	1	1	0
基礎製図検定		235	98	184	34	201	73
計算技術検定	1級	3	0				
	2級	25	1	42	4	30	0
	3級	177	68	117	41	148	45
	4級	133	108	27	9	37	16

洛陽工業高校における資格・検定等の取得状況について(平成20年度～平成22年度)

検定・資格等の名称	等級	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)
基本情報技術者						1	1
ITパスポート						28	8
情報技術検定	1級	3	1	16	1	28	2
	2級	15	7	75	14	39	16
	3級	182	149	204	100	176	108
初級システムアドミニストレータ				7	1		
色彩検定	3級	8	4				
工業英語検定						17	14
実用英語能力検定	準2級					4	0
	3級					103	22

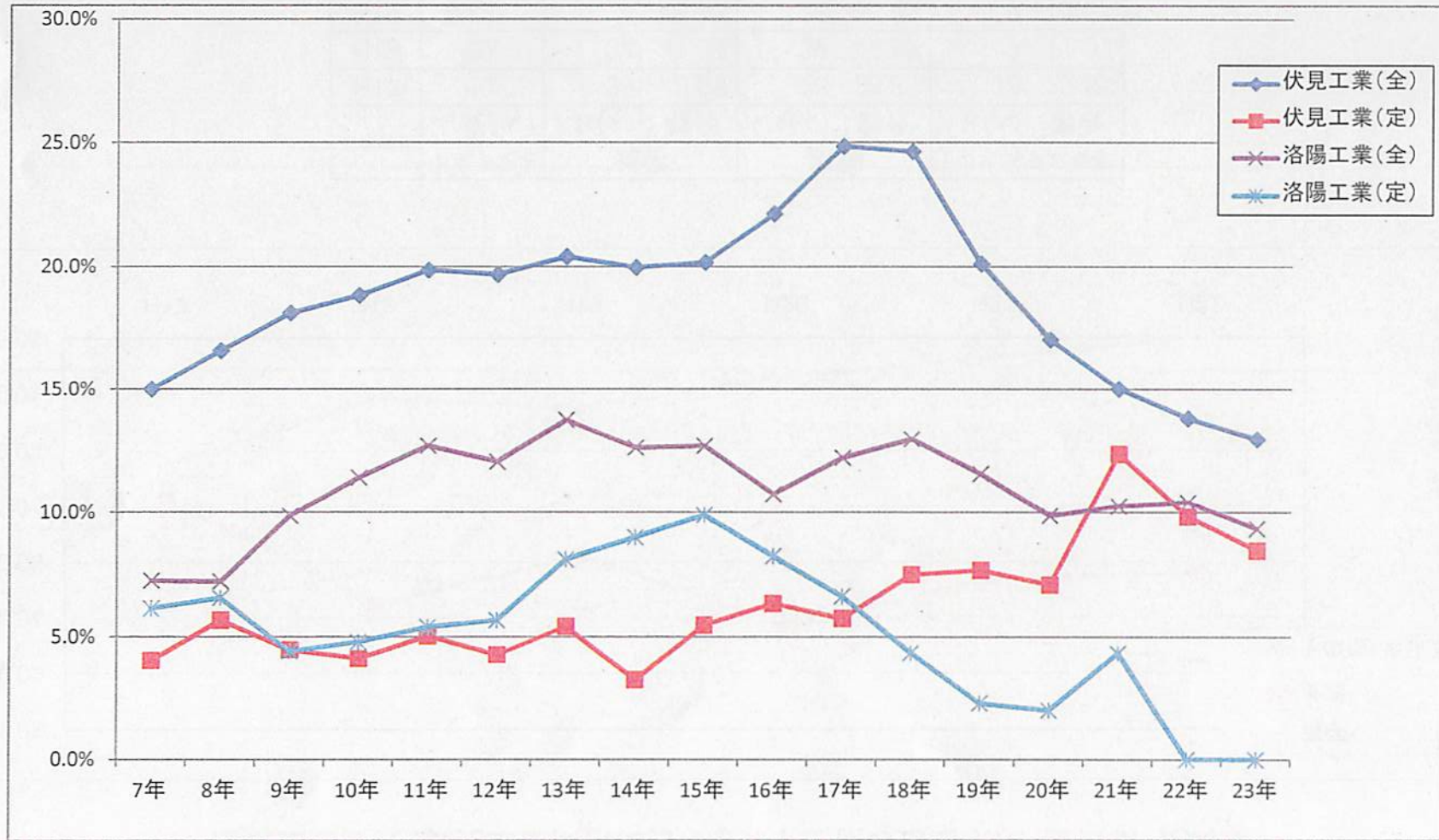
伏見工業高校における資格・検定等の取得状況について(平成20年度～平成22年度)

検定・資格等の名称	等級	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)
ガス溶接技能講習		36	36	7	7	24	24
ボイラー技士	2級	1	1				
ボイラー取扱技能講習						6	6
危険物取扱者	丙種	25	4	13	6	43	43
	乙種1類	2	2	1	0		
	乙種2類			1	1		
	乙種4類	40	4	59	9	45	5
	乙種5類			1	1	2	1
	乙種6類			1	0	2	1
基礎製図検定		34	21	33	14	71	32
機械製図検定		36	15	40	9	31	5
CAD検定	初級	4	4	15	2	14	9
測量士補		1	1	10	5	6	4
土木施工管理技士	2級	12	3				
土木施工技術者				16	11	10	1
建築施工技術者				3	0		
車両系建設機械運転技能者		27	27	25	25		
計算技術検定	1級	5	1	4	0	4	0
	2級	44	3	95	7	66	8
	3級	90	39	227	106	280	190
	4級	159	113	175	110	165	85

伏見工業高校における資格・検定等の取得状況について(平成20年度～平成22年度)

検定・資格等の名称	等級	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
		受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)	受験者数(名)	取得者数(名)
EXCEL 表計算処理技能認定試験	3 級					1	1
パソコン利用技術検定	2 級	34	9	33	6	36	10
	3 級	34	21	33	23	37	31
色彩検定	2 級					3	2
	3 級					4	3
実用英語能力検定	2 級			7	0	1	0
	準2級	10	5	26	7	17	2
	3 級	15	5	40	25	9	6
日本語漢字能力検定	2 級	12	3	13	1	8	2
	準2級	28	7	50	8	56	17
	3 級	67	22	38	15	54	10
	4 級			15	4	2	2

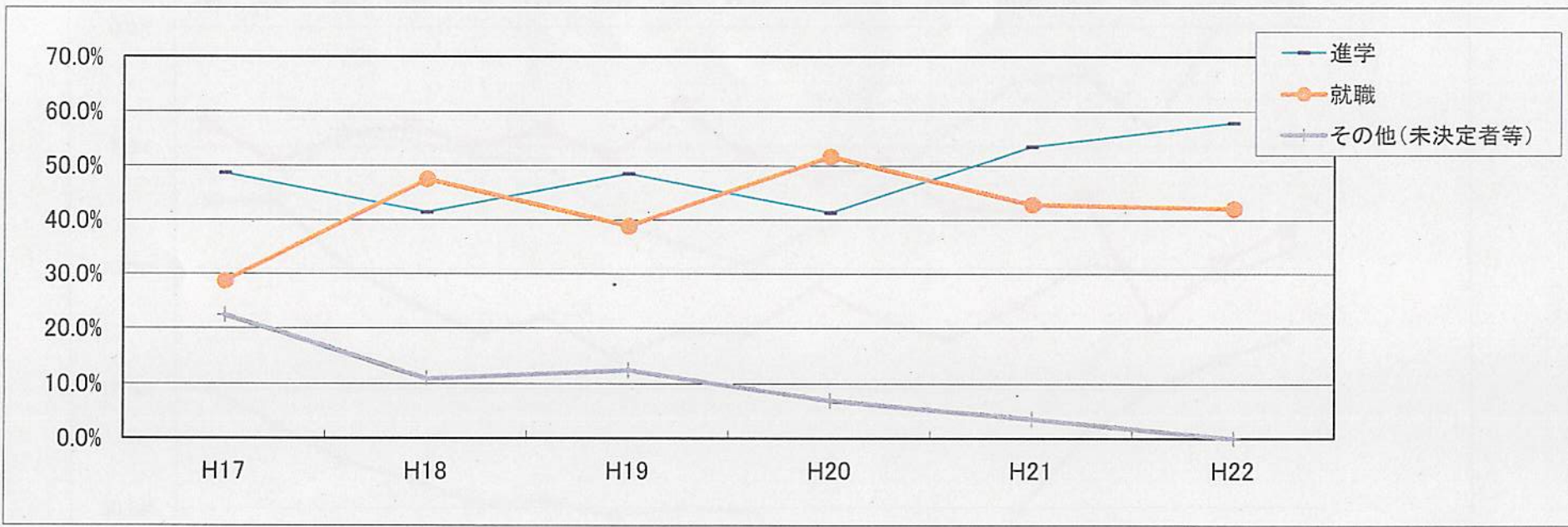
洛陽工業高校・伏見工業高校における女子生徒の割合の推移(平成7年度～平成23年度)



(資料出所) 5月1日現在 学校現況調査 平成7年度～平成23年度(京都市教育委員会)

資料34

洛陽工業高校・伏見工業高校における女子生徒の進路状況(全日制・定時制)



卒業年度	卒業予定者 人数(人)	進学		就職		その他(未決定者等)	
		人数(人)	割合	人数(人)	割合	人数(人)	割合
H17	80	39	48.8%	23	28.8%	18	22.5%
H18	82	34	41.5%	39	47.6%	9	11.0%
H19	72	35	48.6%	28	38.9%	9	12.5%
H20	58	24	41.4%	30	51.7%	4	6.9%
H21	28	15	53.6%	12	42.9%	1	3.6%
H22	38	22	57.9%	16	42.1%	0	0.0%

2011年版ものづくり白書（ものづくり基盤技術振興基本法第8条に基づく年次報告） 要約版

平成23年10月発行／経済産業省 厚生労働省 文部科学省

1. 我が国ものづくり産業が直面する課題と展望

我が国は円高の進行、経済連携協定の整備の遅れ等、我が国を取り巻く事業環境は厳しい状況にある。一方、資源環境制約も強まる中、各国の産業振興の下、新興国の生産基盤は高度化しており、我が国の国際競争力は低下する傾向にある。また、東日本大震災で東北・関東地方の製造業に甚大な被害を及ぼし、部素材供給の途絶が国内外のサプライチェーンに広く影響を及ぼしている。

今後とも我が国製造業が世界を牽引していくためには、攻めの投資と雇用を通して、競争力の源泉たる国内ものづくり基盤を維持・強化していくことが重要である。我が国の強みを収益につなげるためには、積極的な海外投資等によるグローバル市場の獲得と、その果実を還流させ、我が国の復興やさらなる成長に活かすことが重要である。

2. 我が国ものづくり産業の将来を担う人材の育成

将来を担うものづくり人材の確保と現状については、近年の若年技能系正社員の採用状況を踏まえると、新規学卒者の採用ありとする企業の割合は、大企業9割、中小企業は5割半ばである。新卒技能系正社員のうちで最も多い学歴としては、大企業、中小企業とも「工業高校卒」とする企業が最も多い。次いで「工業高校以外の高校卒」、「大卒・理系」であり、これらを合わせると8割を占める。なお、「工業高校卒」については規模別に差があり、「工業高校卒」が最多とする大企業は約半数であるのに対して、中小企業は3割強である。若年技能系正社員の採用目的は、新卒採用は過半数の企業が「企業の中核となる人材の育成」、「高齢従業員との退職に伴う労働力不足」としている。

ものづくり産業をめぐる環境は大変厳しく変化し、我が国の基幹的産業であるものづくり産業の発展のためには、ものづくり人材の育成への取組が従来にも増して必要とされている。ものづくり人材の育成への取組として、技術革新への対応等高度かつ多様な職業訓練やキャリア形成を推進していくための支援、国家資格の取得、技能五輪やものづくりコンテスト等各種大会への積極的な参加などが求められている。

3. ものづくりの基盤を支える教育・研究開発

我が国のものづくりの基盤を支える人材の育成のため、産業界や社会のニーズに対応した教育内容の見直し及び、カリキュラム改善の推進を図るとともに、産業界と連携した実践的なものづくり教育の実施や実験・実習を中心とする体験重視型の専門教育の実施を行い、実践的な技術者の育成を図っていくことが重要である。さらに、ものづくりに携わる有為な技術者の育成のため、大学や研究機関と連携した将来のスペシャリストの育成に係る特色ある取組や、地域の産業界と連携したものづくり人材育成プログラムの開発等の実践的な取組を実施し、成長分野等の中堅技術者として求められている知識・技能の育成及び、高度な専門分野の人材として、基礎を培う実践型人材育成を推進していくことが求められている。

STEM教育の概要について

<概説>

Science (科学), Technology (技術), Engineering (工学), and Mathematics (数学) の一体的な教育を意味する。

わが国では、スーパーサイエンスハイスクール事業での研究開発・教育実践や初等中等教育における各種理科教育の充実等の取組を通じて、初等中等教育におけるSTEM教育の推進を図っている。

また、欧米では、米国や英国を中心に、初等中等段階の科学技術人材育成について、個別に実施されていた施策を統括し、一貫性をもたせることを狙いとしてSTEM教育を国家戦略として推進している。とりわけ、地域の科学学習センターやインターネット上のコミュニティを活用することによって人材育成を図るなど、学校という枠を超えた領域で科学技術教育を展開することを主眼とする取組が多く見られる。

1 わが国における科学技術政策の状況

わが国の学校教育における科学技術に関する学習の振興政策は、1995年の科学技術基本法の制定に際し、導入されたものである。また、同法に基づき、1996年、科学技術基本計画が策定され、学校教育における理科教育・技術教育の充実が掲げられ、小・中・高等学校においては、観察・実験を一層重視することをはじめとする理科教育の改善が試みられることになった。文部科学省、経済産業省、厚生労働省が中心となり、初等中等教育の理科教育をターゲットにした科学技術に関する学習の振興プログラムが推進されている。

【具体的な取組事例】

スーパーサイエンスハイスクール (SSH)、サイエンスパートナーシッププロジェクト (SPP)、各種科学技術コンテスト等

2 ものづくり人材育成を担う専門高校におけるSTEM教育の意義

- STEM教育の推進主体となる大学等の高等教育機関への接続・連続性の確保
 - ⇒ 初等中等教育段階からの一貫したSTEM教育
- 科目間の融合を図り、既存の枠組にとどまらない新領域を開拓する人材の育成
 - ⇒ S(科学)・T(技術)・E(工学)・M(数学)の連動性・一体性
- 高等学校を拠点とした地域社会の連携を促す仕組みの構築・社会全体の科学技術リテラシーの向上
 - ⇒ 社会における科学技術教育インフラの強化

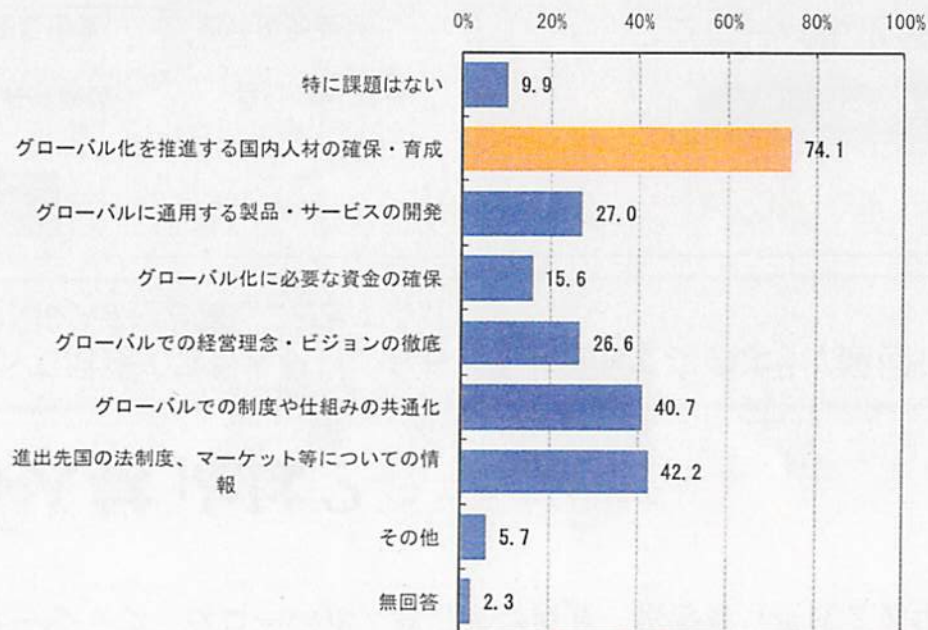
「産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 報告書（平成22年4月 経済産業省）」より抜粋

背景④ 海外展開の最大の課題は「人材」

- 「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」が、海外拠点の設置・運営にあたっての日本企業の最大の課題となっている（約7割が「課題」と認識）。

図表 海外拠点の設置・運営にあたっての課題

海外拠点の設置・運営に際して、貴社が直面されている課題や問題がありますか。また、それはどのようなものでしょうか。(N:263)



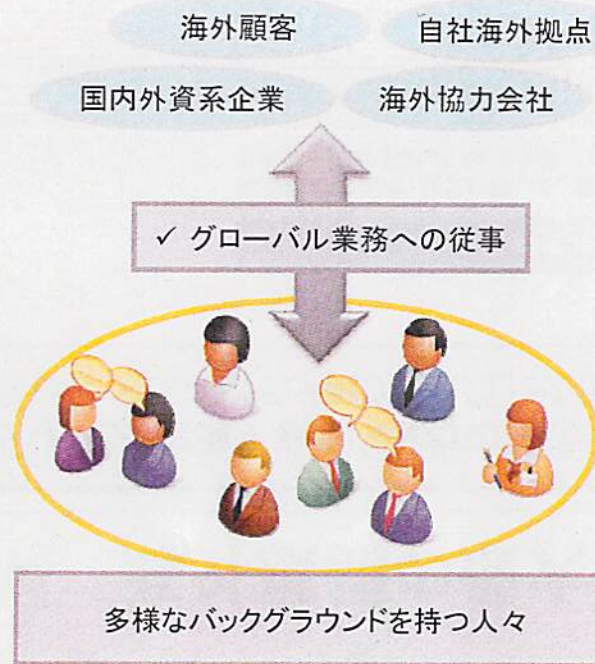
出所) 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」
 回答対象: 海外拠点を設置している企業、現在は設置していないが、既に計画中である(近々、海外拠点を設置する)企業、及び、海外進出のノウハウやリソースがないため(海外展開の意思はあるが予定はない)企業。

「産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 報告書（平成22年4月 経済産業省）」より抜粋

「グローバル人材」とは？

- グローバルな環境下で活躍できる人材は、おおよそ共通して次のように類型化できる。本委員会では、このような人材を「グローバル人材」と言うこととする。

海外拠点、日本国内



本委員会における「グローバル人材」

- グローバル化が進展している世界の中で、
- ✓ 主体的に物事を考え、
 - ✓ 多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、
 - ✓ 文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、
 - ✓ 相手の立場に立って互いを理解し、
 - ✓ 更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、
 - ✓ 新しい価値を生み出すことができる人材

「産学人材育成パートナーシップ グローバル人材育成委員会 報告書（平成22年4月 経済産業省）」より抜粋

「グローバル人材」に共通して求められる能力

- 「グローバル人材」に共通して求められるのは、通常の人材に求められる①「社会人基礎力」*に加え、
②外国語でのコミュニケーション能力、③異文化理解・活用力。

外国語（特に、
世界で幅広く
通用する英
語）でのコミュ
ニケーション
能力

異文化理解・
活用力

社会人基礎力

- i) 多様な文化や歴史を背景とする価値観やコミュニケーション方法等の差（＝「異文化の差」）の存在を認識して行動すること
- ii) 「異文化の差」を「良い・悪い」と判断せず、興味・理解を示し、柔軟に対応できること
- iii) 「異文化の差」をもった多様な人々の「強み」を認識し、それらを引き出して相乗効果によって新しい価値を生み出すこと

前に踏み出す力（アクション）

～一歩前に踏み出し、
失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

実行力

働きかけ力

考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

計画力

創造力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

柔軟性

規律性

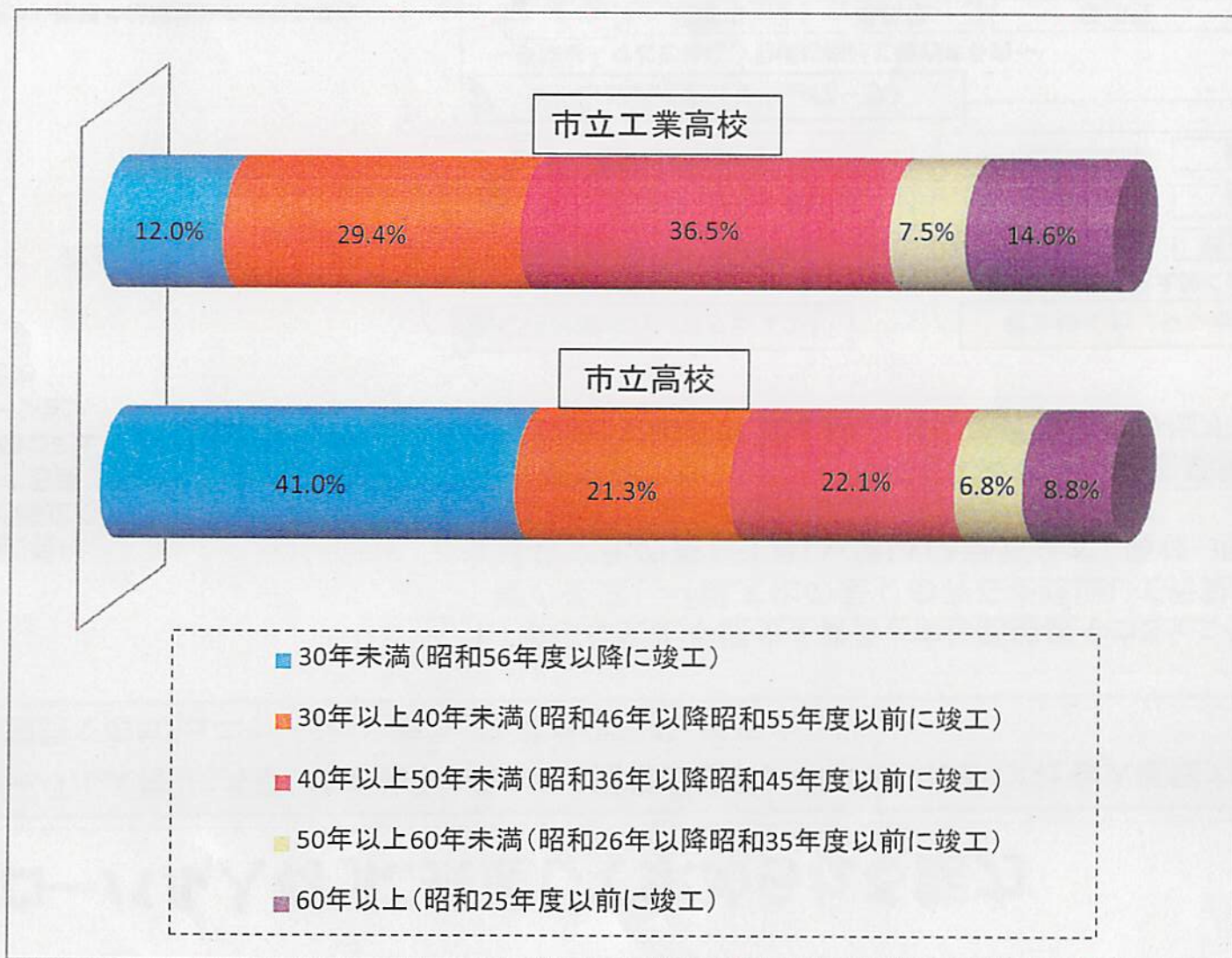
傾聴力

状況把握力

ストレスコントロール力

*「社会人基礎力」：職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力として経済産業省が提唱する概念

建物保有状況【市立工業高校・市立高校比較】（平成23年4月1日現在）








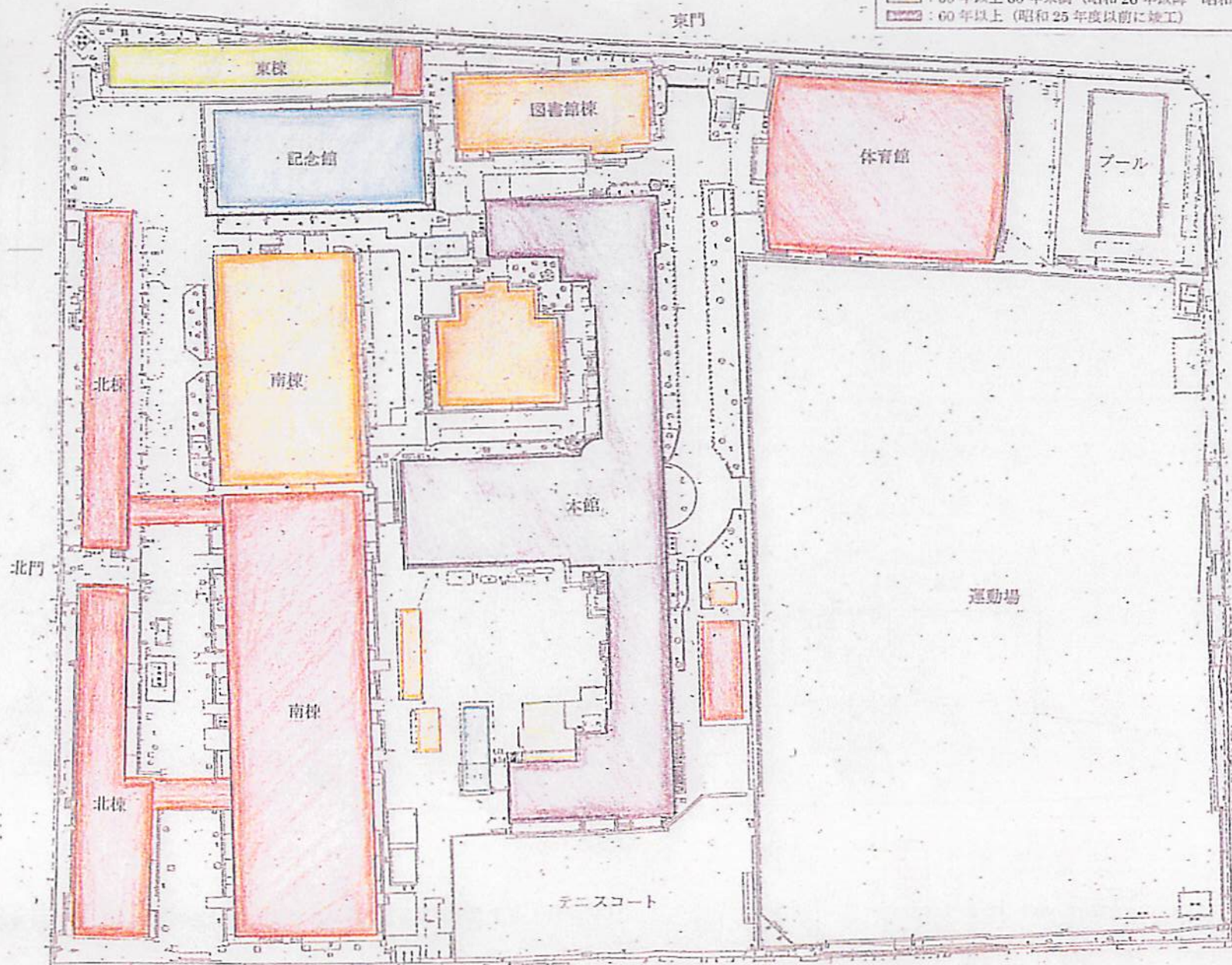
注：上記数値については、全施設の延床面積において該当期間に建築された施設の延床面積が占める割合を示したものである。

京都市立洛陽工業高校における建物保有状況【現況平面図】(平成23年4月1日現在)

縮尺：不明

【凡例】

- | | | |
|---|----------------------|-------------|
|  | ：30年未満(昭和56年度以降に竣工) | 昭和55年度以前に竣工 |
|  | ：30年以上40年未満(昭和46年以降) | 昭和45年度以前に竣工 |
|  | ：40年以上50年未満(昭和36年以降) | 昭和35年度以前に竣工 |
|  | ：50年以上60年未満(昭和26年以降) | 昭和25年度以前に竣工 |
|  | ：60年以上(昭和25年度以前に竣工) | |

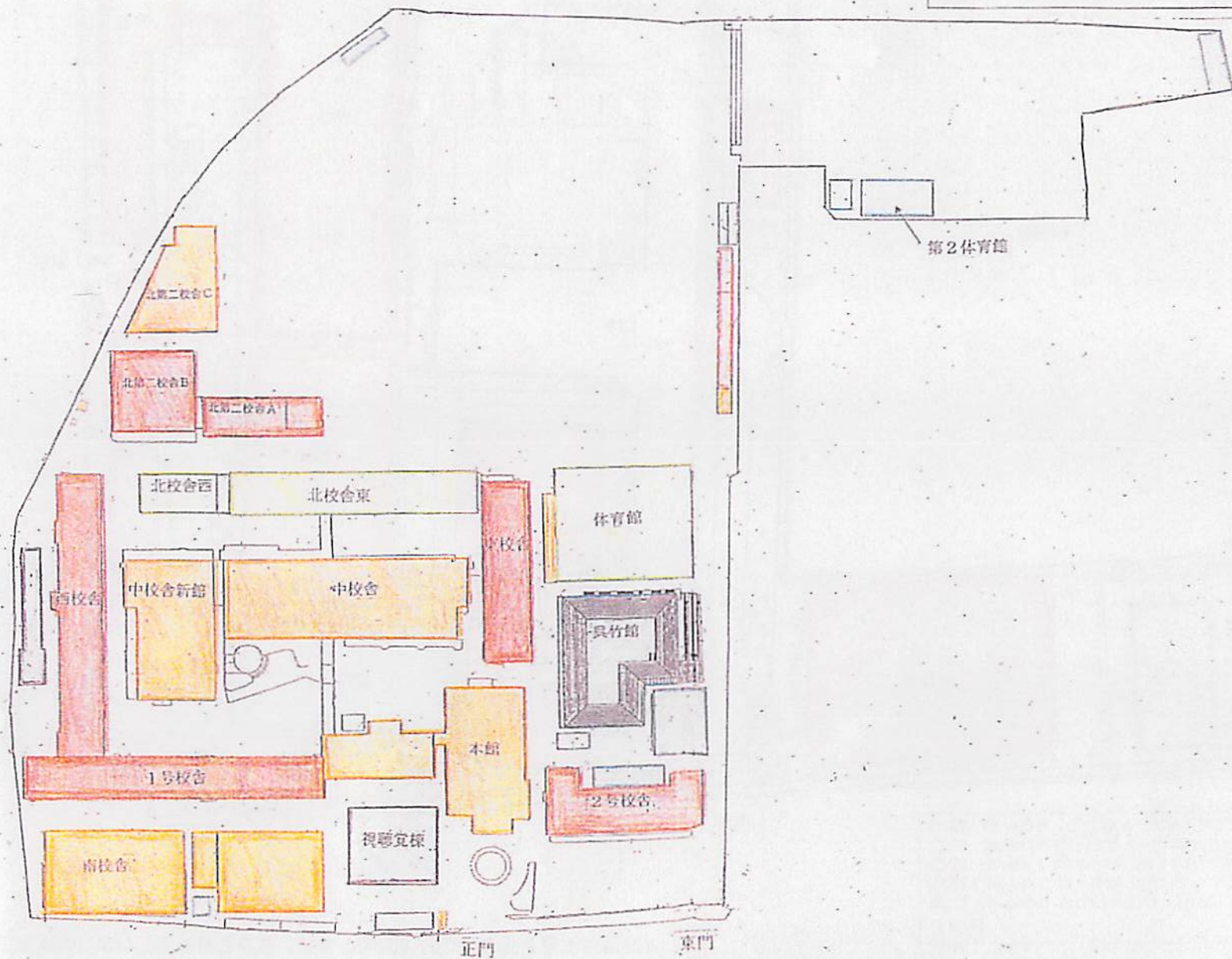


京都市立伏見工業高校における建物保有状況【現況平面図】(平成 23 年 4 月 1 日現在)

縮尺：不明

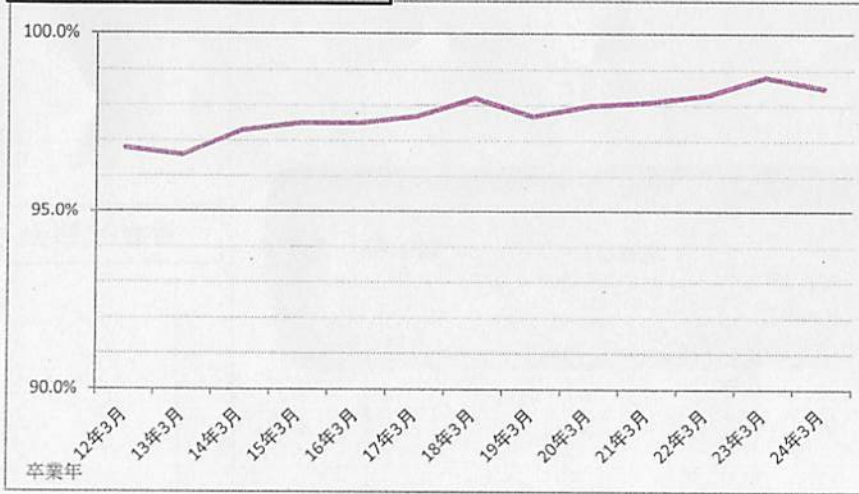
【凡例】

- : 30 年未満 (昭和 56 年度以降に竣工)
- : 30 年以上 40 年未満 (昭和 46 年以降 昭和 55 年度以前に竣工)
- : 40 年以上 50 年未満 (昭和 36 年以降 昭和 45 年度以前に竣工)
- : 50 年以上 60 年未満 (昭和 26 年以降 昭和 35 年度以前に竣工)
- : 60 年以上 (昭和 25 年度以前に竣工)

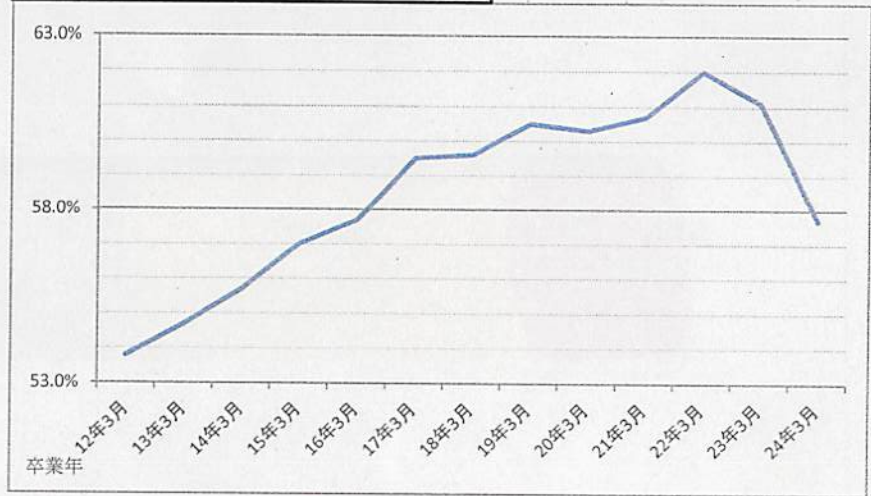


京都市立中学校卒業者の進学状況

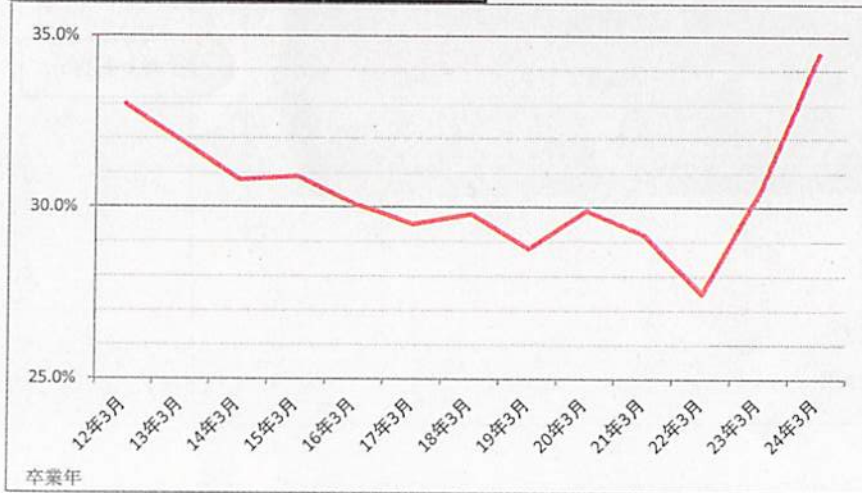
I 高等学校等進学率



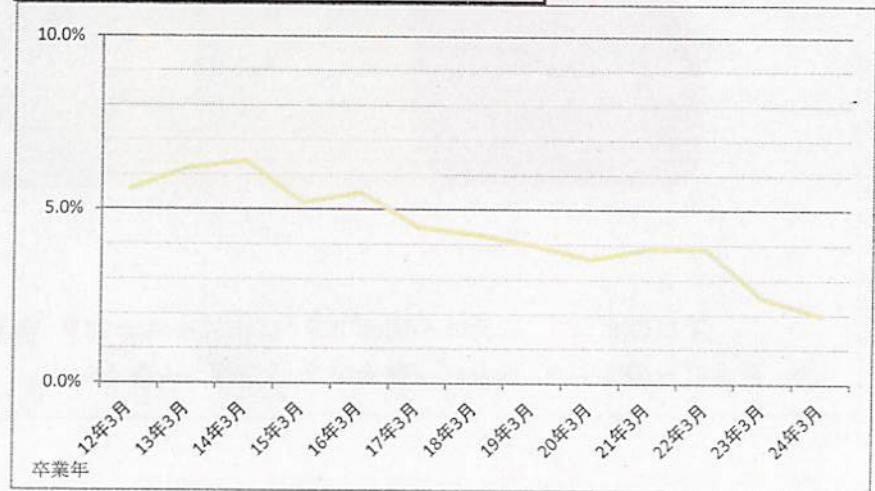
II 全日制公立高等学校進学率



III 全日制私立高等学校進学率

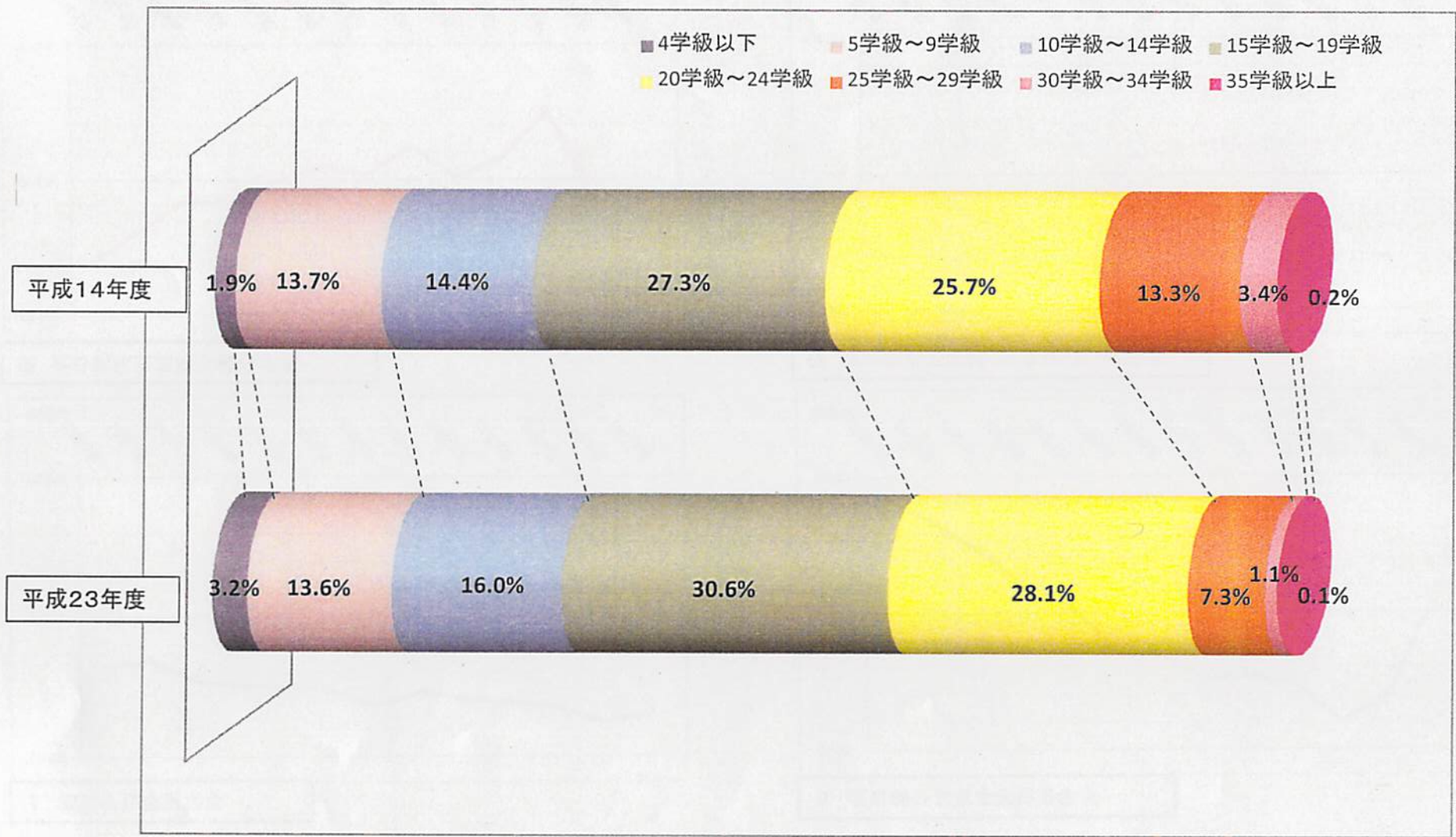


IV 定時制高等学校(公立・私立)進学率



注) 市立西京高等学校附属中学校(併設型中高一貫校), 市立周山中学校(口丹通学圏), 総合支援学校の卒業生については, 上記数値に含まれていない。

公立高等学校における学級数別学校数の推移（全国 全日制）



注) ・上記学級数は、校内全学年を合算したものの。
 ・学校基本調査(文部科学省)により公表された数値を使用。

都道府県立高等学校の適正規模等

自治体名	計画等における表記方法		適正規模等（1校3学年あたりの学級数）							
			6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級	
北海道	望ましい規模									
青森県	適正な規模	三市								
		三市以外								
岩手県	望ましい規模									
宮城県	望ましい規模									
秋田県	適正な規模									
山形県	(なし)									
福島県	適正規模									
茨城県	適正規模									
栃木県	適正規模									
群馬県	適正規模									
埼玉県	適正な規模	普通科								
		専門学科								
		総合学科								
千葉県	適正規模									
東京都	適正な規模	35～40人学級								
神奈川県	適正な規模									
新潟県	標準規模	35～40人学級								
富山県	基本的な規模									
石川県	適正規模									

資料出所：各都道府県高等学校整備計画等

都道府県立高等学校の適正規模等

自治体名	計画等における表記方法		適正規模等（1校3学年あたりの学級数）						
			6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級
福井県	適正な規模	30～36人学級							
山梨県	適正規模								
長野県	適正規模								
静岡県	適正規模								
岐阜県	適正規模								
愛知県	標準規模								
三重県	適正規模								
滋賀県	標準規模								
京都府	適正規模	学年制							
		単位制							
大阪府	(なし)								
兵庫県	望ましい規模	普通科							
		総合学科							
		専門学科							
		生徒減少地域							
奈良県	望ましい規模								
和歌山県	適正規模								
鳥取県	適正規模								
島根県	適正規模								
岡山県	適正規模								

資料出所：各都道府県高等学校整備計画等

都道府県立高等学校の適正規模等

自治体名	計画等における表記方法	適正規模等（1校3学年あたりの学級数）						
		6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級
広島県	適正な規模							
山口県	望ましい規模							
徳島県	適正規模							
香川県	望ましい規模							
愛媛県	適正規模							
高知県	適正規模							
福岡県	望ましい規模の基準							
佐賀県	適正規模							
長崎県	標準規模							
熊本県	適正規模							
大分県	適正規模							
宮崎県	適正規模							
鹿児島県	適正規模							
沖縄県	適正規模							

資料出所：各都道府県高等学校整備計画等

単位制の定時制高校の新設について (京都府教育委員会)

単位制の定時制高 新設

京都府教育委員会が口を揃えて、午前、午後の2部制で生徒が希望に応じて授業を選択する、市内初の単位制の昼間定時制高校を、京都市北区の新設する方針を固めた。単位制を採り、かつ2部制の自由課程を設ける、単年制課程として半卒のコースも、不登校経験者をはじめ多様な生徒のニーズに対応していった。2016年度の開校を目指している。

府教委方針

関係者によると、鴨野(上京区)がグラウンドとして借用している、北区野東側の府立地に校舎を建てる方針。新年度に校舎竣工で着手する意向という。開校では現在、定時制単年制はなく、府教委の希望者懇談会が、定時制と全日制の施設共有の検討を進めていた。

新設校は普通科で、午前、午後の2部制。それぞれ4時間分の授業科目を選択する。生徒は任意で1部か2部を選択するが、履修単位は2部制の4年を卒業して1部だけの卒業も可能という。

単年制の定時制は、全日制と開校が相次いで

初の昼間2部 北区に15年度

いるが、夜間を複合させた2部制が多い。府教委は、生活リズムを維持でき、部活動や学校行事を通じて1体感の育ちを、同じ仲間とのコミュニケーションが、学習指導要領などとも合わせ、教材開発や、民間と連携した資格取得などの教育振興も検討するとしている。

定時制課程は、履修単位の夜間とかが、近年は不登校経験者や転入者など生徒が多様化している。府教委は「全日制も定時制の併設で、多様なニーズに対応する。教育が、新しいシステムを確立した。15年度、新設校の定時制は未定。今後定時制単年制の再編も検討されている。(福井 倫)

「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」に対する市民意見募集の結果概要

1 実施期間

平成24年10月22日（月）から平成24年11月12日（月）まで

2 実施主体

京都市立工業高校将来構想委員会（以下、「委員会」という。）

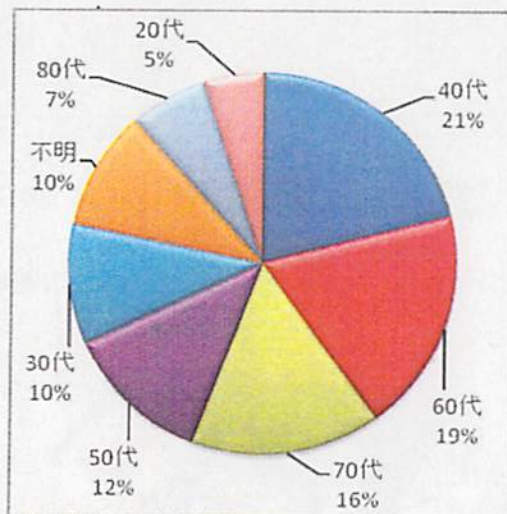
3 意見提出件数

138件

4 御意見をお寄せいただいた方の属性

<年齢別>

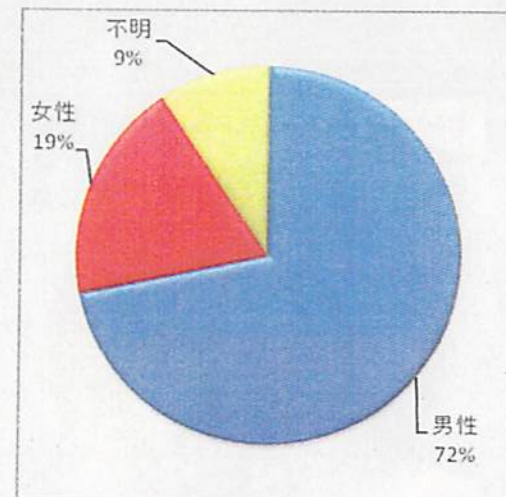
年齢	件数	割合
10代	0件	0%
20代	7件	5%
30代	14件	10%
40代	29件	21%
50代	17件	12%
60代	26件	19%
70代	22件	16%
80代	9件	7%
不明	14件	10%



※ 50代の方が約5割を占め、40代を含めると約7割となる。

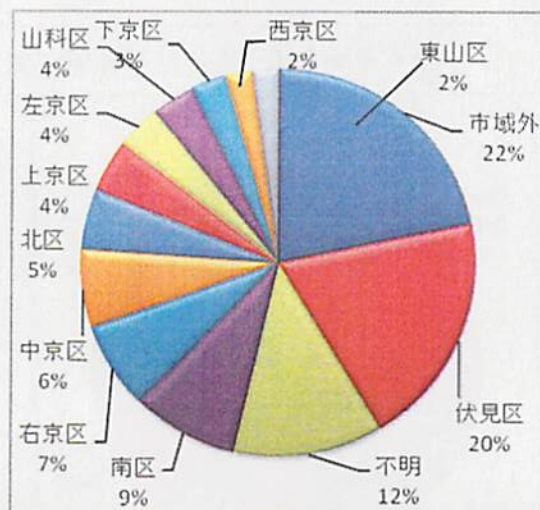
<性別>

性別	件数	割合
男性	99件	72%
女性	26件	19%
不明	13件	9%



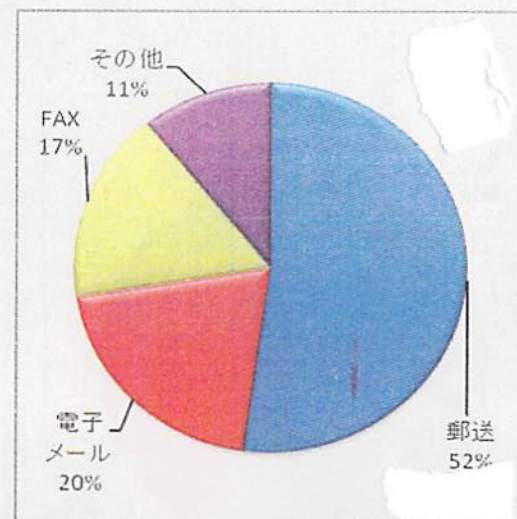
<住所別>

行政区	件数	割合
北区	7件	5%
上京区	6件	4%
左京区	5件	4%
中京区	9件	7%
東山区	3件	2%
山科区	5件	4%
下京区	4件	3%
南区	12件	9%
右京区	10件	7%
西京区	3件	2%
伏見区	27件	20%
市域外	30件	22%
不明	17件	12%



<提出方法別>

提出方法	件数	割合
郵送	72件	52%
FAX	23件	17%
電子メール	28件	20%
その他	15件	11%



※ 市立工業高校の所在地である伏見区・南区を中心に、市内全域から御意見が寄せられている。

5 主な御意見の概要とそれに対する委員会の見解・考え方について

※ 同趣旨の御意見については一つにまとめている場合があります。

I 「最終まとめ」の本文に趣旨を反映した御意見, 又は, 同様の趣旨が既に「中間まとめ」の内容に盛り込まれている御意見

◆ 第1章 市立工業高校に対する基本認識

御意見の趣旨		委員会の見解・考え方
1	京都の「ひと」, 「まち」, 「くらし」, 「地場産業」を支える中堅技術者を育成するために工業高校は必要であり, 存続を望む。	工業高校が将来の技術者を養成し, 日本の「ものづくり」の発展・充実に大きな役割を果たしてきたことを踏まえ, 工業高校の必要性を訴える御意見が寄せられています。産業社会をめぐる状況が激変する今日, 市立工業高校には, 従来の工業高校の特徴でもある資格取得や実習等を通じた特定の専門性・技能の向上だけではなく, 既存の概念を超え, 総合性を帯びたものとして変質する「ものづくり」の担い手を育成し, 社会の発展のために果たしていくべき重要な責務があると考えます。
2	現場や製造過程を担う人材を育てる高等学校は是非必要。	
3	平常時だけではなく, 災害発生など非常時において社会を支える「ものづくり」の大切な部分を考慮し, 防災機能の強化や社会資本の再構築を担う技術者養成が必要。	
4	「ものづくり」は日本立国の最大の原動力であり, その「ものづくり」を通じて, 「生きる力」を育てることは普通科高校にはない工業高校の強み。	

◆ 第2章 次代の「ものづくり」の担い手を育成するために

御意見の趣旨		委員会の見解・考え方
1	中学生が自発的に進学を希望し, 入学後も「この学校を選んで良かった」と感じる学校とすることが大前提。	「中間まとめ」で示された「基礎学力の定着」「STEM教育の趣旨に基づく取組」「グローバル人材の育成に向けた取組」の3点に対する共
2	「ものづくり」が好きな生徒, 普通科への進学が学力的に難しい生徒, 高校卒業後に働きたい生徒にとって工業高校は必要なものである。	

3	基礎学力を重視し、全体を引き上げていくことが今の高校教育には必要。	<p>感的な御意見とともに、さらに一步踏み込んで、「問題解決のための探究能力」や「社会のニーズに応える姿勢や責任の自覚」の育成なども必要とする御意見が寄せられています。「市立工業高校で将来を見据え育むべき資質や能力について」は、グローバル化をはじめとした産業社会の変化に対応するために、基礎学力の定着や英語教育の充実、新たな価値の創造を視野に分野を横断する総合的教育である STEM 教育の趣旨を指導領域に加えることが必要であると考えます。同時に、部活動や地域活動等を通じた人間教育により、コミュニケーション力等の社会人として必要な素養を身につけることも必要であると考えます。とりわけ、「社会貢献意識の向上」は、「ものづくり」を通じて社会の発展に寄与する人材育成に向けて不可欠な要素であるため、御意見の趣旨を踏まえ、「学び」と「社会」とを繋げる教育活動の更なる充実に関する内容を第2章の本文に反映します。</p> <p>「ものづくりへの意欲・興味関心の高い生徒の確保」については、「ものづくり」を素材として、小・中学生や女子生徒を含めた生徒の「学び」への興味・関心を高めることが市立工業高</p>
4	生徒の多様な進路に対応し、将来的に幅広く応用することが可能となるように、基礎基本をしっかりと教えつつ、実習に加えて数学・物理・情報等の理論も重視しなければならない。	
5	工業高校では3年間で専門科目にしっかり取り組み、資格取得等を通じて技術の習得に努めるべきである。	
6	最近の「ものづくり」は様々な力が集まってなされる印象がある。実習から学問的背景への発展深化まで総合的に学ぶことのできる環境で STEM 教育を推進し、リーダーシップ溢れる生徒が集う学校とすべき。	
7	問題解決のための探究能力、進取の気性をもった「新たな創造」を使命とした「ものづくり教育」を実践する、早期工学人材育成に向けた学校への転換に期待したい。	
8	産業のグローバル化への対応として、英検受験や英語の授業時数の確保といった英語教育の充実とともに、留学生の受け入れや海外の製造現場や教育機関での実習など魅力的で体系化された教育内容のもと、社会のニーズに応える姿勢や責任を自覚させるべき。	
9	クラブ活動や地域活動等を通じた人間教育の実践を通じて、ソーシャルスキルやコミュニケーション力の向上など社会人として必要な素養を身につけ、将来を担う人材育成に努めてほしい。	
10	「ものづくり」に適した資質をもった人材を入学させられるかを考慮する必要がある。	
11	「ものづくり」における女性の活躍は必要であり、女子生徒に焦点を当てた取組を推進すべき。女子生徒の視点にたった部活動や教育環境の充実を求める。	

		校の役割と考えます。
12	伏見工業高校昼間定時制は、成果もあるが、設置趣旨とは異なり、問題行動の多発など多くの課題を抱えることになっており、もはや定時制課程である必要はない。現在、京都府が柔軟な教育システムを有する単独高校の設置を表明しているため、伏見工業高校昼間定時制は一定の役割を終えることになる。平成27年度以降は生徒募集を行わないことを求める。	昼間定時制については、設置当初の趣旨が十分浸透せず、目的意識が乏しい生徒が多く入学する実態があることを踏まえ、京都府の動向を見据え、早期に京都府・京都市間で十分協議し、そのあり方を見直すべきと考えます。
13	「教員の資質向上」を重点項目として位置づけるべき。現有の教職員は、大学院や企業との連携による技術研修等を通じて常に進化する産業界に目を向け、時代の先端を担うスキルを身につけていくべき。	市立工業高校の教育を支える指導者のあり方については、「ものづくり」の将来を担う有為な人材を育成する学校づくりを進めるうえで不可欠な要素なため、御意見の趣旨を踏まえ、第2章の本文に反映します。
14	民間企業との人事交流による教職員研修の実施や企業等の開発担当者を指導者として招聘するなど、国内外を問わず大学や企業の研究所等との連携による指導者の人的方策を講じるべき。	

◆ 第3章 今後の「ものづくり」を見据えた市立工業高校のあり方

御意見の趣旨		委員会の見解・考え方
1	産業界を支える裾野の広い人づくりを担ってきたこれまでの良き伝統を継承し、モデルとなる学校となるよう期待。	日本の未来を左右すると言っても過言ではない「ものづくり人材」の育成は、社会全体で担うべき課題です。その中で、市立工業高校も、地域や企業、研究機関等との効果的な連携により『ものづくり教育の場』としての役割、「ものづくり」の『生涯学習の場』としての役割を果たすなど、世代を超えた「ものづくり人材」育成の橋渡し役としての機能を担うことが必要と考えます。市民からも同様の趣旨の御意見
2	「ものづくり都市・京都」を支える即戦力として期待される職業人を育成するため、教育の内容及び場所の観点から、大学や研究機関、先端技術を有する企業との有機的なつながりが必要。	
3	幼稚園・小学校・中学校時代から「ものづくり」への興味関心を喚起するために、一般市民等が休日にも「ものづくり体験」が可能な「ものづくりセンター」を学校内に設置すべき。	
4	実務的な工業技術の学習の場、生涯を通じて学び続けるための新たな学習の場としての役割を市立工業高校が果たしてほしい。	

5	公共の施設設備のあり方として、生涯学習の充実や小中学生への興味喚起に資することは重要であるが、そのためには整備の経済的裏付けや施設設備の管理体制の確立が必要である。	が寄せられています。
6	「工業高校＝就職」のイメージが強い中、勉強すれば大学進学も可能という選択肢は生徒にとって良いこと。	具体的な大学進学へのニーズの高まりを受け、大学における工学教育への接続を見据えなければなりません。また、市民からは、工業高校の発展した形として「スーパー技術ハイスクール」や「科学技術の新たなタイプの学校」ということに言及された御意見も寄せられました。
7	これまでのように職工の中核となる人材を育成するだけではいけない。上位志向をもつ生徒が多い中、大学の学びにつながる高校が必要。	
8	工業高校から大学に進学する意義は、工業高校で培われた基礎的技術と工学的センスを大学の工学教育の中で継続的に磨き、発展させることにある。	
9	両校の専門教育の特性を生かし、ものづくり教育の場としてバランスのとれた社会人、産業界を担う人材育成のため、1校に統合すれば良い。	
10	2校の再編にあたって、これまでの2校の独自性が失われないか心配。	
		再編にあたっては市立工業高校両校が培ってきた伝統の継承や専門教育の特性を生かしてほしいとの御意見の趣旨を、第3章の本文に反映します。

◆ 第4章 市立工業高校の施設・設備の整備と学校規模

御意見の趣旨		委員会の見解・考え方
1	老朽化や耐震性の問題を解消するため、新しい校舎の整備が必要。	市立工業高校の学校規模については、現在の両校の生徒数は平成元年と比べて約半数の350名となっている中で、専門委員である両校の学校長からも、教育活動を円滑に進めるためには現在より大きい規模が望ましいとの発言があり、それを含め、全国的な状況等を総合的に勘案して適正規模を1校1学年あたり240名から320名と
2	多様な学習活動や部活動の活性化を考慮すると、1学年6学級から8学級は必要。	
3	歴史と伝統がいくらあっても既成概念にとらわれない新しい試みが必要。財政の低減化を図りつつ、2校の専門教育の特性を融合し、「ものづくり」教育の場としてバランスのとれた社会人、産業界を担う人材育成を図るため、1校に統合することは現実的。新しい施設や先端設備、優秀な指導者や新しい教育内容を有する科学技術立国日本が誇る新しい工業高校としてほしい。	

4	新たな場所に新たな学校を設置し、新たな施設設備のもとでスタートができれば、中学生がこの学校で学びたいという意欲や教員が意欲的に働く意義を湧き立たせることができるのではないかと。	<p>しました。なお、記載にあたっては、1学級あたりの生徒数を国が定める標準人数である40名を指標として使用していますが、きめ細かな教育のもと確かな技術を学ぶという工業高校の特性を踏まえ、現在と同様に1学級30名程度での学級編成とされるべきであると考えます。</p> <p>また、「学校規模」や「財政状況等を踏まえた施設整備への効率的な投資」の観点からの2校の再編については、限られた行政資源を効率的・効果的に活用し、生徒にとってより充実した学びの場となるよう両校の優れた部分を活かしながら統合することが望ましいという趣旨で提示しております。</p>
5	最小の経費で最大の効果を生み出すことが大切。2校を維持し、切磋琢磨することも有意義であるが、施設の老朽化対策が経済的に困難であれば、統合もやむを得ない。生徒たちのために時代に沿った環境整備を期待したい。	
6	再編の背景としてコスト面への課題が掲げられているが、教育は投資であり、基本構想に基づく理念と実現への実行継続こそが将来的に成果を生み出す。	
7	最新の工業技術を学ぶことができるように、設備の更新が容易な施設構造とすべき。	
8	改革は急務であり、速く再編すべき。	
9	少子化や大学進学率の向上等の社会情勢や産業社会の変化、京都市財政を考慮すると、再編は避けられない。	
10	技術革新を引き起こす人材のキャリア形成のためにも、工業高校2校を再編し、充実させることが必要。	
11	工業高校として課題や問題点が多くある中、提言内容を実現し、両校の優れたところを活用すべき。	
12	時代にあった技術や技能を育てる工業高校としてリニューアルしていくことは大切。2校の良いところを持ち寄って、経費も節約しながら素晴らしい工業高校をつくる発想は現実的。	
13	統合による新しい工業高校が素晴らしいものとなるよう期待したい。	
14	2校を1校にし、早期に日本一の工業高校としてほしい。	

◆ 今後の京都市立工業高校の発展に期待する御意見

今回の市民意見募集では、今後の市立工業高校の発展に期待いただく御意見が寄せられました。

御意見の趣旨

1	市立工業高校そのものに対するニーズを根本的に問い直すための絶好の機会である。
2	「中間まとめ」に内容には納得している。理想とする工業高校が実現できるよう知恵を絞って前進させてほしい。
3	さらに誇らしい校風を継承された新しい学校に「我が母校」と訪れることができる、応援できる工業高校にしてほしい。

4	部活動で人間教育をしていけるよう文武両道の魅力ある新しい工業高校を再構築してほしい。
5	洛陽・伏見のどちらを残すかという狭い視野ではなく、従来の発想や古い考えに固執することなく、「ものづくり」を担う人材を新しい工業高校でしっかりと育ててほしい。
6	工業高校から日本の未来を担う技術者が生まれるよう頑張してほしい。
7	ものづくりの最先端で活躍していけるような力を身につけることができる学校にしてほしい。
8	汚い、暗いイメージがある工業高校に中学生が希望や目標をもって進学するためには、魅力ある施設が必要。
9	先進的な工業高校の設立について基本的には賛成。新しいタイプの工業高校には充実した設備と優秀な指導者、新しい教育方法が不可欠であり、既存概念を変える必要がある。
10	再編統合されるのであれば、新しい校舎で先端設備を有した科学技術立国日本に誇れるスーパー工業高校としていただくことを望む。
11	大学進学を視野に入れた科学技術系の新たなタイプの学校など、進学する者にとっても魅力的な学校とすべき。「ものづくり・まちづくりを通じて就職を目指すコース」、「理工系大学への進学を目指すコース」、「部活動の活性化を目指すコース（スポーツ系）」を融合する全国唯一の内容を有し、「知・徳・体」のバランスのとれた新しい専門高校とすべき。
12	全日制2校を進路選択の目的別に再編してはどうか。1校はSTEM教育の趣旨に基づいた教育によるスペシャリスト型技術者の育成を目指し、理工系大学進学を目的としたもの。もう1校は国家資格や技能検定の取得を通じたテクニカル型技能者の育成を目指し、就職を目的としたもの。生徒一人一人が生き抜く軸を育むためには、目的を分散させるよりも集中させるべきである。

II 上記以外の幅広い御意見

以下の御意見につきましては、委員会の「最終まとめ」を受けて、京都市教育委員会が具体的事項を検討する際に改めて参考にしていただきたい。

御意見の趣旨

1	若手中間技術者を絶やさないでほしい。
2	「就職率100%」が誇張され、本質的な改革につながらないことが懸念される。
3	工業高校は、資格取得における要件において有利である。
4	STEM教育の趣旨に基づいた授業展開は有効であると思うが、現在の非正規教員中心の指導体制では実現は難しい。

5	工業高校では3年間で専門科目にしっかり取り組み、資格取得等を通じて技術の習得に努めるべきである。
6	専門分野のスキルアップばかりでなく、部活動など普通科と同じように楽しく充実した高校生活を送れるような学校づくりを進めてほしい。
7	全寮制の学校とし、全国から生徒募集をすべき。
8	中学校3年生及びその保護者に対する営業戦略がない。工業高校は普通科の予備軍であってはいけない。
9	市立工業高校が将来的に担うべき機能として提言されている内容は、本来、大学や公的機関が担うべきであり、現在の市立工業高校の施設設備及び教員では実現不可能。
10	幼稚園から高校までの一貫教育体制による科学技術教育を検討すべき。とりわけ、高校段階では、工学系大学進学コースを含む「スーパー技術ハイスクール」が必要。
11	高校・大学の一貫教育体制や大学への編入システム等の検討が必要。
12	高校は大学の予備校ではない。
13	大学進学希望者のためのクラスは不要。卒業年限選択制を導入し、大学進学希望者は卒業を1年延期し、その期間で進学に備えることができる制度を構築すべき。
14	3年課程と5年課程を並立させるなど、基礎理論から応用理論に至るまでの高度な科学技術を学ぶ機会を若者に提供すべき。
15	堀川高校や西京高校とは別の魅力をもつ学校とすべき。
16	文部科学省が少人数教育の有効性を認めている中、それに反する内容とすべきでない。多様な問題を抱えた生徒や保護者が増加する状況下では、学校規模を確保するよりも、2校を維持し、少人数で内容を充実させ、ゆとりある学校とすることが必要。
17	例えば、「ものづくり」と「環境」をテーマにグローバルな見方ができるようにするなど、従来の学科を付合させるだけでなく、技術革新を引き起こす人材のキャリア形成を視野に、新しい工業高校のあり方、目標、コンセプトを創造し、充実させていくことが必要。
18	工業高校が1校に統合されるのは不安だが、仕方がない。しかし、中学生の進路を考慮し、必要な定員は確保すべき。
19	伏見工業高校を残してほしい。
20	交通アクセス、知名度、敷地面積等を考慮し、新しい工業高校を伏見工業高校の地で開設してほしい。
21	洛陽工業高校を残してほしい。
22	工業高校2校を存続させ、各校が担う領域を差別化し、特色化を図ることで、将来を見据え、広範囲にわたる「ものづくり」に対応すべき。

23	京都らしさを生かす議論が欠けている。最初から統合ありきという印象を受ける。
24	「将来構想＝2校の再編による合理化」など、発想が全てネガティブ。
25	時代の要請に合わず、万策尽きたのであれば、京都市立工業高校は2校とも廃止すればよい。
26	工業高校以外の市立高校を含めた統廃合をも視野に入れているような表現には強い危惧をもつ。再編、統廃合にあたっては、まずは理念や目的を明確化しなければならない。そのうえで、具体的内容については、教員や保護者等からの幅広い意見聴取と議論を踏まえなければ大きな混乱を招く。
27	伏見工業高校昼間定時制が募集停止になること、塔南高校と洛陽工業高校の一部が統合して工業系の進学校へ、洛陽工業高校の一部と伏見工業高校が統合して新しい工業高校へ改編されることが決まっていると聞くが、これは事実か。
28	「ものづくり」よりも経済効率の観点から再編が提示されているように感じる。財政負担を理由とした再編には反対。京都市が2校の工業高校を維持できないとは思えない。両校ともに施設、設備を更新、充実し、注目に値する学校としてほしい。
29	両校ともに卒業生は出身校名が失われてしまうことに抵抗があると思う。校名を残してほしい。
30	校名については、市立工業高校が新たな飛躍を遂げることを広く知っていただくためにも、両校の名前は残さず、新しい名称とすべき。
31	建設工学を学ぶ環境を存続させてほしい。
32	軽度発達障害の生徒への対応のため、特別支援教育士の有資格者の配置が必要。